



# 2026年3月期 通期 決算説明会資料

株式会社FRONTEO 証券コード 2158

2026年5月15日

## CONTENTS

01	決算ハイライト	3
02	ライフサイエンスAI事業	8
03	リスクマネジメント事業	24
04	DX事業	28
05	2027年3月期業績予想	30

Appendix 会社案内

# 01 決算ハイライト

## 2026年3月期 通期 経営指標

- 連結売上高は、ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)の好調およびアルネッツ(DX事業)の買収効果が、リスクマネジメント事業(リーガルテックAI分野)の米国事業撤退による売上減少を上回り、前年同期比25.3%増で着地
- 連結営業利益は、ライフサイエンスAI事業の収益改善およびアルネッツ(DX事業)の収益貢献により、前年同期比40.1%増で着地
- 引き続き、ライフサイエンスAI事業を中核事業と位置づけ、経営資源を戦略的に選択・集中することで、事業拡大を加速

連結業績		ライフサイエンスAI事業	
売上高	営業利益	売上高	営業利益
7,643 百万円 前年同期比 +25.3%	▲16 百万円	1,033 百万円 前年同期比 +191.4%	
		リスクマネジメント事業	
営業利益	売上高	営業利益	売上高
739 百万円 前年同期比 +40.1%	4,019 百万円 前年同期比 ▲25.2%	606 百万円 前年同期比 ▲8.1%	
		DX事業	
EBITDA	売上高	営業利益	売上高
1,182 百万円	2,590 百万円 前年同期比 +598.9%	149 百万円 前年同期比 +49.6%	

# 2026年3月期 通期 連結業績および進捗

- | 営業利益は、上方修正後の業績予想を上回り、105.6%の達成率で着地
- | ライフサイエンスAI事業：売上高は前年同期比約3倍に成長。下期において営業利益黒字化を達成し、通期黒字化へ目途
- | リスクマネジメント事業：リーガルテックAI分野の米国事業撤退により売上高・営業利益が減少した一方、経済安全保障分野の売上高は前年同期比28%成長
- | DX事業：アルネッツの買収効果により大幅な増収増益

## 連結損益計算書

(百万円)	FY24	FY25	前年同期比		FY25 修正予想	達成率
			増減	変化率		
売上高	6,099	7,643	+1,543	+25.3%	7,700	99.3%
（ライフサイエンスAI事業）	354	1,033	+678	+191.4%	1,000	103.3%
（リスクマネジメント事業）	5,374	4,019	▲ 1,354	▲25.2%	4,100	98.0%
（DX事業）	370	2,590	+2,219	+598.9%	2,600	99.6%
売上原価	2,646	3,737	+1,090	+41.2%	-	-
売上総利益	3,452	3,905	+453	+13.1%	-	-
販売費及び一般管理費	2,925	3,166	+241	+8.3%	-	-
営業利益	527	739	+211	+40.1%	700	105.6%
（ライフサイエンスAI事業）	▲ 231	▲ 16	+215	-	▲ 100	-
（リスクマネジメント事業）	659	606	▲ 53	▲8.1%	650	93.2%
（DX事業）	99	149	+49	+49.6%	150	99.7%
経常利益	543	675	+131	+24.1%	715	94.4%
当期純利益	555	544	▲ 10	▲2.0%	615	88.5%

\* 2026年3月期よりセグメント変更しております。2025年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

# 2026年3月期 通期 連結業績および進捗

- | 現預金の減少・負債の増加は、アルネッツ買収の影響が主な要因
- | 自己資本比率は39.7%と安全水準。経営の安定と成長のバランスをとった資本政策を推進

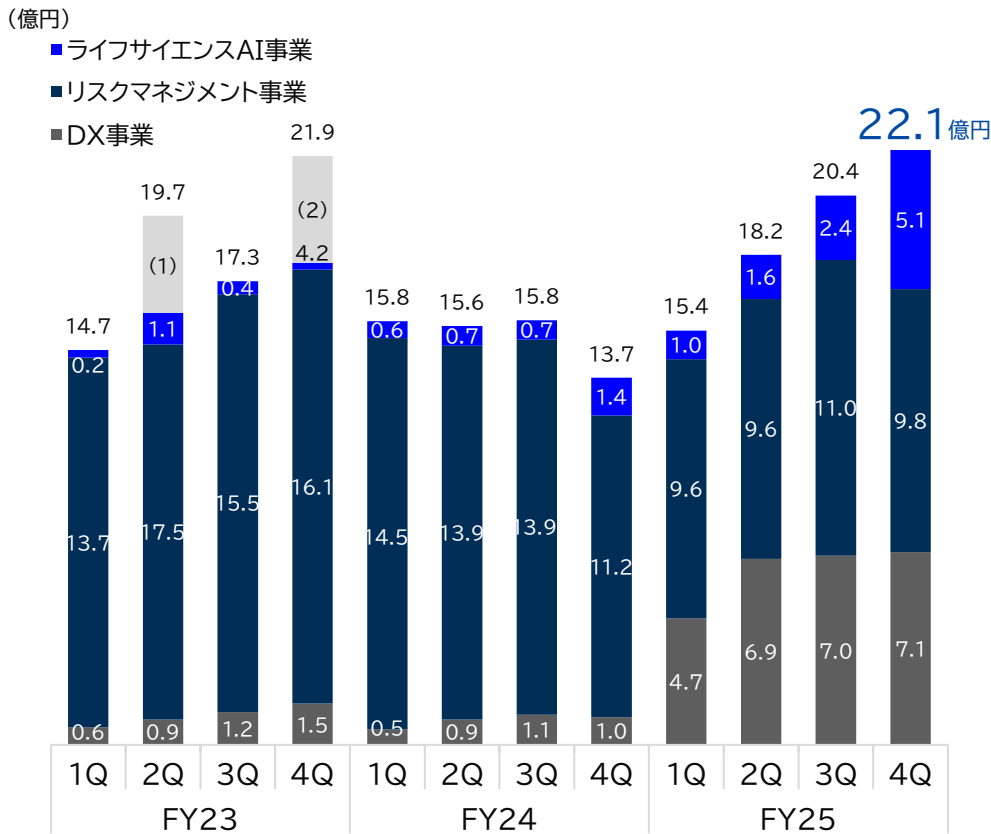
## 連結貸借対照表

(百万円)	25/3	26/3	25/3比	
			増減	変化率
資産の部				
流動資産	4,003	3,834	▲ 168	▲4.2%
現預金	2,598	1,734	▲ 864	▲33.3%
売掛金及び契約資産	1,025	1,506	+480	+46.9%
貸倒引当金	▲ 5	▲ 35	▲ 30	-
その他流動資産	383	629	+245	+64.0%
有形固定資産	299	451	+151	+50.7%
無形固定資産	824	2,478	+1,654	+200.8%
ソフトウェア	432	644	+212	+49.1%
のれん・顧客関連資産	-	1,239	+1,239	-
投資その他の資産	1,340	2,437	+1,097	+81.9%
資産合計	6,466	9,202	+2,735	+42.3%
負債・純資産の部				
流動負債	2,844	4,181	+1,336	+47.0%
固定負債	394	1,176	+781	+198.1%
純資産	3,227	3,844	+616	+19.1%
負債・純資産合計	6,466	9,202	+2,735	+42.3%

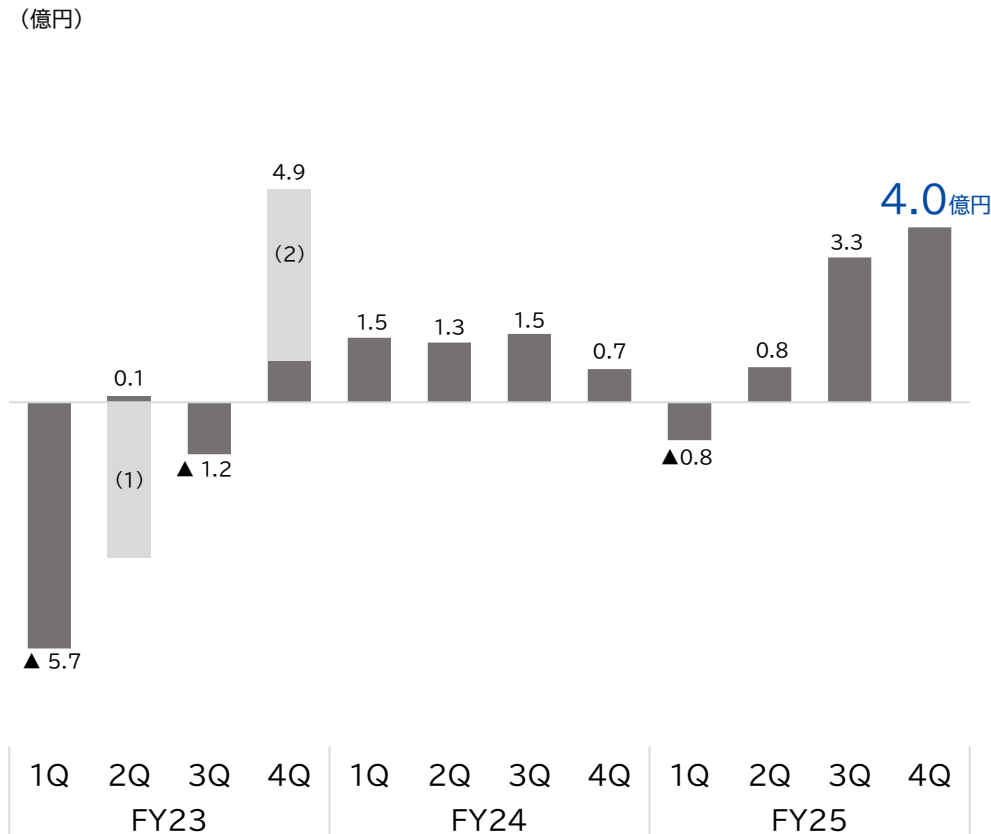
# 四半期毎の売上高・営業利益の推移

- ｜ ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)やDX事業といった注力領域への転換が順調に進行
- ｜ 上期は一過性費用(米国事業撤退費用、M&A関連費用、ライフサイエンスAI事業への人材投資)の計上により収益悪化したものの、下期は注力領域のライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)やDX事業が想定以上に進捗したことにより、営業利益は大幅に増加し、業績予想を上回る着地

## 連結売上高



## 連結営業利益



(1) リスクマネジメント事業: 大型案件ライセンス買取による収益を一括計上 (2) AI医療機器契約一時金の一部を計上

\* 2026年3月期よりセグメント変更しております。2024年3月期および2025年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

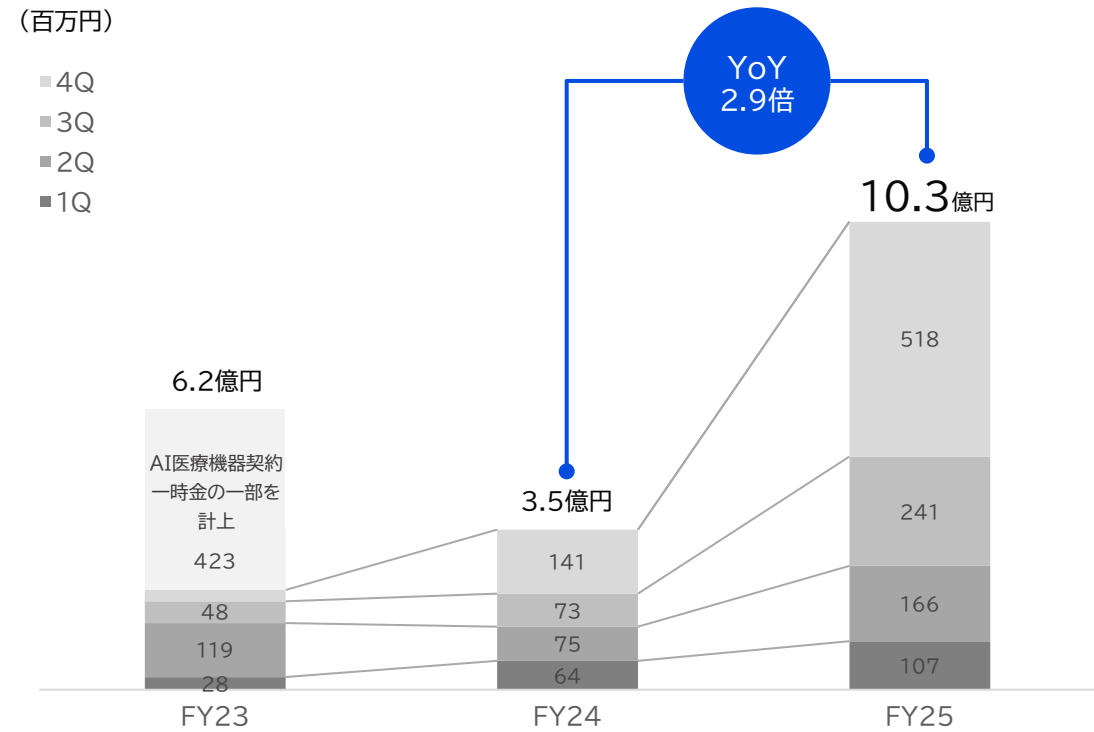
## 02 ライフサイエンスAI事業



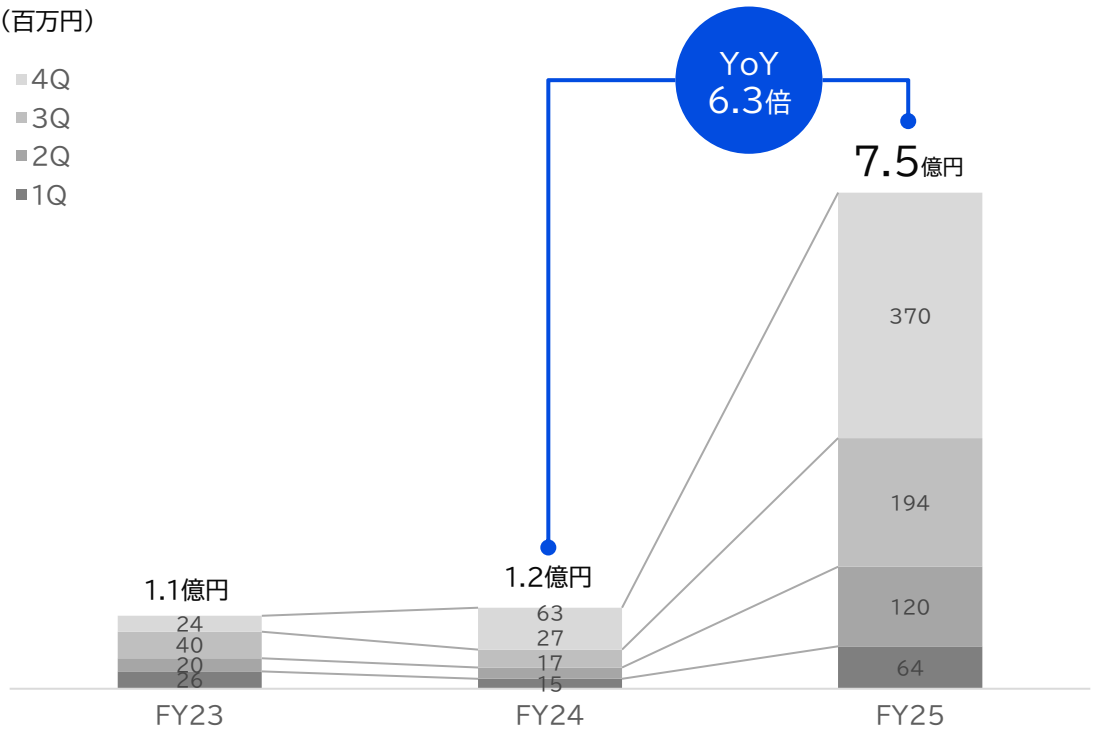
# ライフサイエンスAI事業 売上高

- AI創薬分野のAI創薬支援サービス“Drug Discovery AI Factory(DDAIF)”は、共創プロジェクト※案件数がFY24の7件から大幅に増加し、22件で着地。  
また、国内バイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業「DDAIF Innovation Bridge」が第4四半期から収益に貢献し、下期は営業利益黒字化を達成
- AI医療機器分野において、塩野義製薬との共同開発の「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」は、製造販売承認取得および社会実装に向けた開発が計画通りに進捗。「トークラボKIBIT」の収益はFY25から寄与

## 売上高



## AI創薬売上高



※共創プロジェクトとは、製薬企業と当社の研究チームが協調し、検証済標的の獲得までを目指す形態

# ライフサイエンスAI事業 AI医療機器・非医療機器 パイプライン

- | AI解析による会話型の「あたまの健康度」判定Webアプリケーション「トークラボKIBIT」の提供を開始。日本生命保険、朝日生命保険に導入済み
- | 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」について、臨床試験が2026年3月完了。2026年度中の承認取得を目指す
- | 他疾患を対象としたアライアンスおよび非医療機器における産業横断アライアンスの協議が進行中

アライアンスのパイプライン



純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」は数学者が発見した方程式(トヨシバ方程式)により駆動

# 純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」

数学者が発見した方程式で駆動するAI

トヨシバ方程式 日米欧特許技術

$$L=a\{F(\theta 2)-F(\theta 1)\}$$

$$F(x)=\frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}x^2+\frac{1}{2}x+\left(\frac{1}{2}\right)^2\right)-a\left(\frac{1}{2}\right)^2-c$$

\*方程式はイメージです

推論を実現

- ✓ 因果関係を理解
- ✓ 全く新しい発見
- ✓ 極省電力(CPU1個)

方程式駆動型AI  
(KIBIT)

方程式

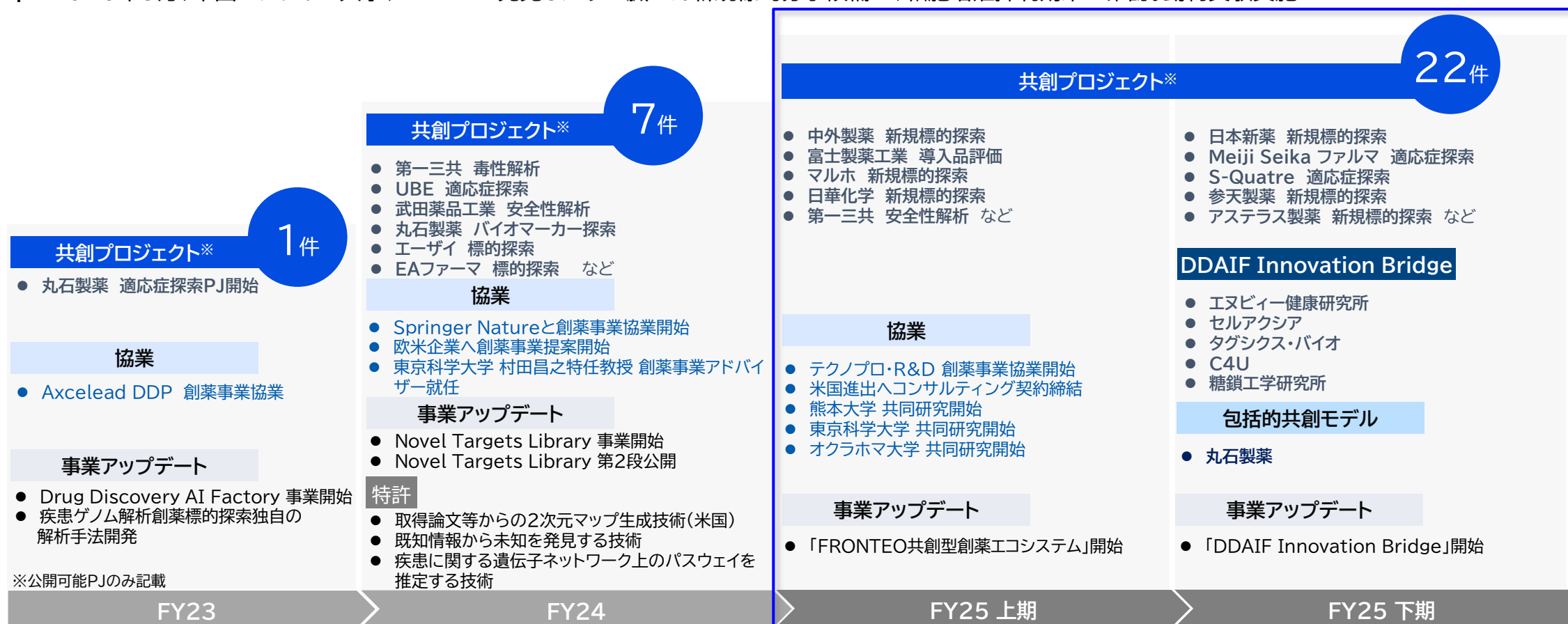
$$x=\frac{-b\pm\sqrt{b^2-4ac}}{2a}$$

$$\begin{aligned} &a^2x^2+bx+c=0 \\ &a\left\{x^2+\frac{b}{a}x+\left(\frac{b}{2a}\right)^2\right\}-a\left(\frac{b}{2a}\right)^2+c=0 \\ &a\left\{x^2+\frac{b}{a}x+\left(\frac{b}{2a}\right)^2\right\}=a\left(\frac{b}{2a}\right)^2-c \\ &\left\{x^2+\frac{b}{a}x+\left(\frac{b}{2a}\right)^2\right\}=\left(\frac{b}{2a}\right)^2-\frac{c}{a} \\ &\left(x+\frac{b}{2a}\right)^2=\frac{b^2-4ac}{4a^2} \\ &x+\frac{b}{2a}=\pm\sqrt{\frac{b^2-4ac}{4a^2}} \\ &x=-\frac{b}{2a}\pm\frac{\sqrt{b^2-4ac}}{2a} \\ &x=\frac{-b\pm\sqrt{b^2-4ac}}{2a} \end{aligned}$$

文書や単語を意味をもったまま解析することが可能

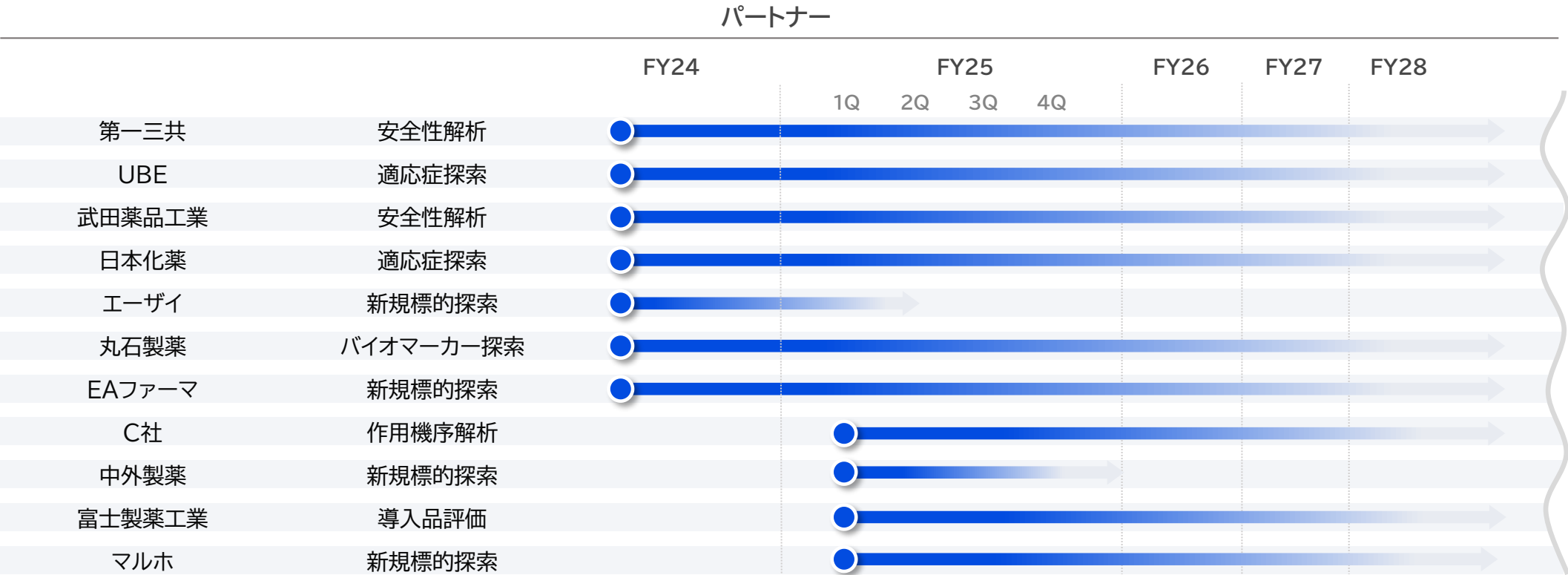
# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 “Drug Discovery AI Factory(DDAIF)” 沿革

- 2023年7月のDDAIF開始以来、特許に裏付けられた技術がPOCでその実績を認められ、製薬企業等との共創プロジェクトへ発展
- FY25は、国内バイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業「DDAIF Innovation Bridge」や特定の疾患や研究テーマに限定しない、研究開発戦略全般に対する意思決定を支援する「包括的共創モデル」を提供開始
- 2026年4月、東京科学大学に「FRONTEO AI創薬エコシステム協働研究拠点」開設。ドライ・ウェット研究の密接な連携により日本の創薬力強化に貢献
- 2026年5月、米国オクラホマ大学、DDAIFで発見したすい臓がん新規標的分子候補で、細胞増殖抑制効果を確認。動物実験実施へ



# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロジェクトパートナー 1/3

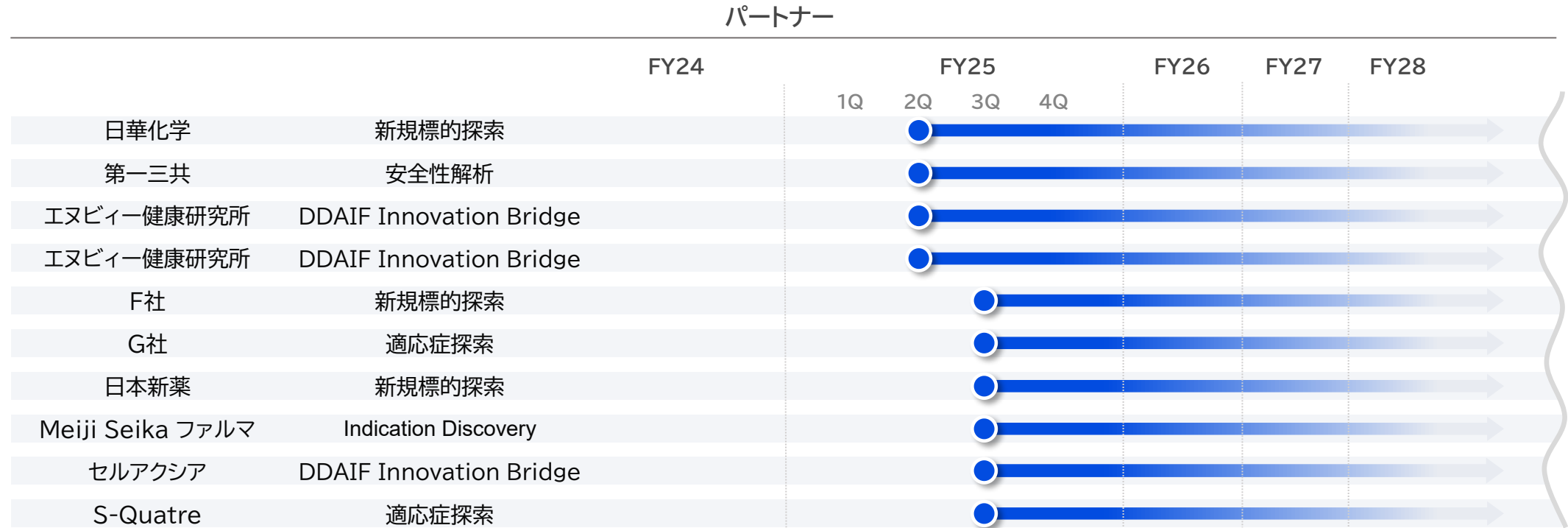
AI創薬支援サービスDDAIFの実績が積み上がり、FY25通期KPIである10件※に対し、22件受注し、進捗率220%を達成



※ライフサイエンスAI事業のAI創薬分野のステージ4達成に向けてのKPI

# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロジェクトパートナー 2/3

| 従来の共創プロジェクトに加え、「包括的共創モデル」や「DDAIF Innovation Bridge」による非連続的な収益拡大を目指す



# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロジェクトパートナー 3/3

- エヌビー健康研究所をはじめとする複数案件で、第1フェーズにおけるDDAIFの有効性が認められ、第2フェーズへ進展するケースが増加
- エヌビー健康研究所との案件については、最短で2026年度中の製薬会社への導出(ライセンスアウト)を目指す



# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 アステラス製薬、標的分子探索に関する契約を締結

## AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」により標的分子の非連続的な発見を実現し、革新的医薬品の早期創出へ

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)は、アステラス製薬株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長CEO:岡村 直樹、以下「アステラス製薬」)と、AI技術を活用した標的分子探索に関する契約を締結しました。

当該契約に基づき遂行されるプロジェクト(以下「本プロジェクト」)では、FRONTEOのAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(以下「DDAIF」)」に、アステラス製薬の疾患・創薬の知見および最先端テクノロジーを組み合わせることで、革新的医薬品の早期創出を目指します。

FRONTEOの「DDAIF」は、自然言語処理に強みを持つ自社開発の方程式駆動型AI「KIBIT(キビット)」と、創薬研究者およびAIエンジニアの知見を融合し、疾患関連遺伝子ネットワークの解析や標的分子候補の仮説生成を支援するサービスです。

本プロジェクトにおいてFRONTEOは、膨大な論文情報を「KIBIT」により解析し、対象疾患と標的分子との間における、論文未報告の関係性を含む新規性の高い標的分子候補を抽出します。

■株式会社FRONTEO 取締役/CSO(Chief Science Officer) 豊柴 博義コメント  
「FRONTEOの『DDAIF』は、膨大な文献情報を高速かつ網羅的に解析し、AIがバイアスにとらわれることなく、既存の論文では報告されていない疾患と標的分子の未知の関連性を非連続的に発見することを強みとしています。  
疾患の複雑化・多様化を背景に、創薬標的分子候補の枯渇が世界的な課題となる中、本プロジェクトでは、アステラス製薬様が選択した対象疾患についてFRONTEOが標的分子候補の抽出とその作用メカニズムを示す仮説構築を担い、アステラス製薬様の創薬活動を推進します。これにより、革新的医薬品創出の迅速化が実現すると考えています。本プロジェクトを通してアンメットメディカルニーズの解消に貢献できることを光栄に思います。」

### 創薬の仮説生成



「FRONTEO Drug Discovery AI Factory(DDAIF)」は、自然言語処理に特化したAI「KIBIT(キビット)」(日本・欧州・米国・韓国特許取得済)と、FRONTEOの創薬研究者およびAIエンジニアの知見を融合したAI創薬支援サービスです。疾患関連遺伝子ネットワークの解析や、標的分子候補に関する仮説の構築を通じ、医薬品開発における研究者の意思決定を強力にサポートします。本サービスはすでに複数の大手製薬企業で導入され実績を重ねています。

※Drug Discovery AI Factoryに使われている技術は、FRONTEOが日本および韓国、米国、欧州で計21件の特許権を取得しています。



## AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」とアカデミアの技術力・研究力を融合、 ドライ・ウェット研究の密接な連携で日本の創薬力強化に貢献

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)と国立大学法人東京科学大学(所在地:東京都目黒区、理事長:大竹 尚登、以下「東京科学大学」)は、2026年4月1日、東京科学大学横浜キャンパス内に「FRONTEO AI創薬エコシステム協働研究拠点」(以下「本拠点」)を開設しました。  
本拠点は、FRONTEOの方程式駆動型AI「KIBIT」と東京科学大学が有するPLOM-CON解析法やリシール細胞技術などの先端技術を同一拠点で融合させ、仮説生成から実験検証まで一気通貫で実行可能になります。AI創薬分野における最先端技術の社会実装を推進し、日本発の創薬イノベーション創出を目指します。本日4月27日、両者は調印式を開催しました。



(左)FRONTEO 代表取締役社長 守本 正宏 (右)東京科学大学 理事長 大竹 尚登 氏

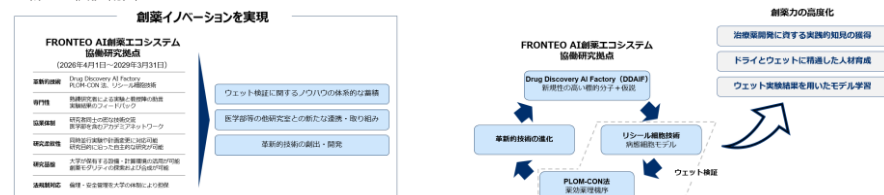
### ■これまでの連携と本拠点開設の経緯

FRONTEOと東京科学大学は、2022年より疾病構造解析および創薬ターゲット探索に関する共同研究を進めるなど、連携を深めてきました。これまでの成果を踏まえ、基礎研究から社会実装までの連携を本格化させるため、本拠点の開設に至りました。

### ■本拠点が実現する創薬の「仮説検証ループ」

現在の創薬エコシステムを競争力のあるものにするためには、AIによる標的分子探索や仮説生成(ドライ研究)と、細胞や生体を用いた実験検証(ウェット研究)を有機的に結びつける必要があります。  
本拠点では、FRONTEOがAI「KIBIT」を用いた創薬標的分子候補の抽出および作用メカニズムの仮説構築(ドライ研究)を行い、東京科学大学が実験検証(ウェット研究)を迅速に実施します。さらに、実験結果を再びAI解析に還元することで、仮説生成と検証を循環させる「仮説検証ループ」を高水準で実現し、創薬成功率の飛躍的な向上を目指します。

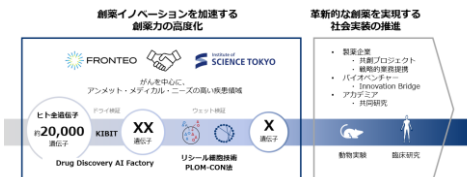
### ■本拠点による新たな価値創出



本拠点により、大学においては研究成果の社会実装へとつなげる仕組みの構築、製薬産業においては高度な作用機序理解や生体理解に基づく良質な創薬シーズの獲得、社会に対しては革新的な治療法・医薬品の創出という価値をもたらすことが期待されます。

共同研究は、がん領域をはじめとするアンメット・メディカル・ニーズの高い疾患領域を対象とします。研究において見出された有望な創薬シーズについては、導出も視野に入れた展開を検討します。また、研究において得られた発明等については、FRONTEOが東京科学大学と協議の上で、知的財産権の一部または全部の取得を検討します。

### ■本拠点を支える革新的技術



### 【FRONTEOの技術:「非連続的発見」を可能にする方程式駆動型AI「KIBIT」】

FRONTEOが提供するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(以下「DDAIF」)」は、「KIBIT」を中核エンジンとして、創薬研究者およびAIエンジニアの知見を融合したサービスです。

一般的な自然言語処理AIやナレッジグラフは、「AはBに關係」「BはCに關係」といった連続的なつながりから推論を行います。しかし、この「連続的発見」のアプローチでは、研究者が求める新しい発見を導くことは困難です。「KIBIT」は独自の方程式により、論文に直接記載されていない疾患と遺伝子の「非連続的」な関連性を予測することが可能であり、この技術は日本・米国・欧州で特許を取得しています。

「DDAIF」のこれまでの実績として、すい臓がん研究において約20,000のヒトの全遺伝子の中から、標的分子候補17遺伝子を抽出し、in vitro試験により6遺伝子ですい臓がん細胞の増殖抑制を確認しています。また、従来約2年を要していた「標的探索」のプロセスを2日に短縮しました。

### 【東京科学大学の技術:「PLOM-CON解析法」と「リシール細胞技術」】

東京科学大学は、2026年1月に文部科学省より国際卓越研究大学に認定されるなど、日本を代表する研究機関の一つです。同学の村田昌之特任教授らの研究グループは、細胞科学における革新的な先端技術を有しています。

●「PLOM-CON解析法」は、単一細胞内のタンパク質の量的変化および質的・時空間的(局在)変化に基づき、細胞状態を解明する技術です。従来の静的解析が「点を見る」アプローチであるのに対し、PLOM-CONは「システム全体の揺らぎを見る」動的ネットワーク解析により、病気の初期(前兆)段階での細胞状態変化を検出し、新規標的の発見や作用機序の解明を可能にします。

●「リシール細胞技術」は、細胞膜を一時的に開放し、内部のタンパク質や因子を物理的に置換した後、再び膜を修復して新たな機能を持つ細胞を構築する技術です。十数年かかる疾患の発症過程を実験室でその日に解析することが可能となります。

### ■コメント

東京科学大学 総合研究院 細胞制御工学研究センター 特任教授/FRONTEO AI創薬エコシステム協働研究拠点 拠点長 村田 昌之 氏

「FRONTEOの方程式駆動型AI「KIBIT」と出会い、私たちの細胞科学技術との融合に大きな可能性を感じてきました。本拠点で、ドライとウェット双方の卓越した研究者が日常的に議論し、発見を共有・検証し、次の仮説生成へとつなげていく。このループを回すことで、従来の創薬研究における不確実性と戦いを制し、創薬の成功確率を飛躍的に向上させる、次世代創薬のプロトタイプになると確信しています。」

株式会社FRONTEO 取締役/CSO(Chief Science Officer)/FRONTEO AI創薬エコシステム協働研究拠点 副拠点長 豊柴 博義

「創薬研究におけるAIの活用が進む中、創薬の成功確率向上にはAIによる予測結果を細胞・動物実験で検証し、その結果を再びAI解析に反映するサイクルの高度化が不可欠です。東京科学大学の優れた研究者と協働し、両者の技術融合や新たな技術の創出・開発によりアンメット・メディカル・ニーズに応える創薬の加速に取り組めることを大変嬉しく思います。FRONTEOの自社創薬研究を推進するとともに、日本の創薬力強化に貢献し、『日本を再び創薬の地に』の理念の実現に努めてまいります。」

## 米国オクラホマ大学、FRONTEOがAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」で発見した すい臓がん新規標的分子候補で、細胞増殖抑制効果を確認 今後は動物実験へと進め、アンメット・メディカル・ニーズに応える医薬品開発を目指す

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)は、AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(以下、DDAIF)」で抽出したすい臓がん新規標的分子候補について、共同研究先である、米国国立がん研究所(NCI)指定がんセンターを擁するオクラホマ大学医学部 武部 直子 教授の研究室で検証実験を行いました。その結果、オクラホマ大学でも細胞増殖抑制効果が確認され、当社の先行試験を裏付ける結果が得られましたので、お知らせします。

当社は2025年6月に米国進出を本格化し、同年7月にオクラホマ大学との共同研究を開始しました。今回の検証結果は、その共同研究における具体的な進展です。両者は今後、動物実験へと研究を進め、アンメット・メディカル・ニーズの極めて高いすい臓がんに対する新たな治療選択肢の創出を目指します。



### ■検証実験の概要と結果

FRONTEOは2025年、自社開発の方程式駆動型AI「KIBIT(キビット)」と独自の解析手法を用い、約2万個のヒトの全遺伝子の中からわずか2日ですい臓がん創薬の標的候補となる17遺伝子を抽出しました。このうち細胞を用いた試験において、6遺伝子で細胞増殖抑制効果を確認しました。なお、これら6遺伝子のうちの4遺伝子はすい臓がんとの関連性を報告した論文がなく、残る2遺伝子も既報の論文がわずか1報のみ(2025年4月19日時点)という、極めて新規性の高い標的分子候補でした。これらの標的分子候補のうち、薬の標的として有効と考えられた遺伝子を中心に、オクラホマ大学で検証実験を行いました。その結果、さまざまなすい臓がん由来の細胞株を用いた実験で、がん細胞の増殖抑制が確認されました。特に複数の異なるKRAS変異を背景に持つ細胞株でも増殖抑制効果が確認され、有効性が示されました。加えて、オクラホマ大学チームの臨床における知見から、標的に関する患者層別マーカーが提案され、「KIBIT」が構築したすい臓がん分子ネットワークが示唆する主要なパスウェイとの関連についても仮説検証を進めています。

### ■今後の展望

両者は今後、動物実験を行い、さらなるエビデンスを積み上げます。並行して、すい臓がんの発症メカニズムに関する仮説の検証も進め、臨床開発に向けた研究を加速します。FRONTEOはこれらの成果を、製薬企業への導出(ライセンスアウト)や共同開発を通じて社会実装し、治療の選択肢が限られたすい臓がん患者に一日も早く新たな治療の選択肢を届けることを目指します。

### ■オクラホマ大学医学部 血液腫瘍学内科教授 武部 直子 氏のコメント

当研究室で行った、細胞を用いた検証実験では、さまざまなすい臓がん由来細胞株で細胞増殖抑制が確認できました。共同研究開始当初、FRONTEOがDDAIFを用いて抽出した標的分子候補は、既存の論文での報告がほとんどない、極めて新規性の高いものでした。あまりにも類似情報が少ないことから、当研究室のメンバーの間でも半信半疑な面もありました。しかし、実際に検証を進め、結果が確認できた瞬間、明確に研究室の中の空気が変わったのを今でも鮮明に覚えています。今では、チーム全員が非常にエキサイティングな気持ちで研究に臨んでいます。今回の結果は、すい臓がんの治療にとって、大きな一歩になると確信しています。今後、動物実験などでさらにエビデンスを積み上げ、臨床開発に向けて進め、一日も早く患者さんへ届けたいと考えています。まだ治療の選択肢を持てずにいる患者さんたちのために、FRONTEOとともに、この挑戦を前進させていきたいと思っています。



### ■FRONTEO・オクラホマ大学における共同研究の概要

FRONTEOとオクラホマ大学医学部の血液腫瘍学内科教授 武部 直子 氏の研究室は、2025年7月より共同研究を実施しています。FRONTEOはDDAIFを活用した創薬標的候補の抽出や疾患メカニズムに関する仮説の生成を担当し、オクラホマ大学は武部教授の専門的知見に基づき、生物学的有効性の検証を主導することで、アンメット・メディカル・ニーズの高い疾患領域における有望な創薬標的の効率的な同定を目指しています。オクラホマ大学医学部は、米国国立がん研究所(NCI)指定がんセンターであるOUヘルス・スティーブンソンがんセンターを擁する全米屈指の医学研究機関で、同センターでは現在、300件を超える臨床試験、400件以上のがん研究プロジェクトが推進されています。

### ■アンメット・メディカル・ニーズが極めて高いすい臓がん

すい臓がんは、5年生存率が10%未満と、部位別で最も低い水準にあるがんとして知られています。治療薬が限られており、毒性の強い化学療法剤に頼らざるを得ないに加え、化学療法剤が効かなくなると治療選択肢がほとんどなくなる、アンメット・メディカル・ニーズの極めて高い疾患のひとつです。世界的にも、有効な新規治療薬の開発が長年の課題となっています。

# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社のAI創薬拠点「KIBIT AI Biology Lab」を開設

## AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」を大幅アップデート、 創薬バリューチェーンの最上流を担う体制を本格稼働

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)は、自社のAI創薬拠点「KIBIT AI Biology Lab」を開設しました。  
本拠点は、当社がAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(以下「DDAIF」)」を用いて展開している4つのAI創薬事業およびアカデミアとの共同研究において中核となり、今後のAI創薬事業推進における最重要拠点となります。本拠点には数十人規模の研究者・AIエンジニアが所属し、創薬バリューチェーンの最上流に位置する「標的分子探索・仮説生成」を担う体制を本格稼働させます。これにより非連続的な収益機会の確保を目指し、希少疾患・がん領域を中心とした製薬企業への導出(ライセンスアウト)パイプラインの拡大を加速してまいります。

### KIBIT AI Biology Lab



#### ■ 本拠点の役割

① 大学連携から導出まで、創薬イノベーションが継続的に生まれる仕組みを本格稼働  
本拠点の開設により、FRONTEOはDDAIFを用いた「新規標的分子候補の探索、ドライ実験、仮説検証」を起点に、東京科学大学や米国オクラホマ大学などのアカデミアとの共同研究によるウェット(細胞・生体)検証、臨床研究、またバイオベンチャーとの研究開発連携を経て、製薬企業への導出に至るまでの一連の創薬プロセスを、FRONTEOが起点となって駆動させる枠組みを本格稼働いたします。  
複数の製薬企業と導出に向けた協議を進めており、本拠点の本格稼働により、非連続的な収益機会の拡大を図ります。

② AI創薬支援サービス「DDAIF」を大幅アップデート、製薬企業・大学・バイオベンチャーの研究開発を加速  
本拠点の稼働により、DDAIFが大幅にアップデートされます。これまでDDAIFは主に文献データベース(論文等)を解析対象としてきましたが、今後は本拠点や東京科学大学・オクラホマ大学などの共同研究機関で得られるウェット検証・臨床研究結果を反映した解析が可能となり、解析精度の飛躍的な向上を実現します。  
「文献データのみを解析するAI」から「自社拠点・連携機関のドライ・ウェット・臨床研究データを学習し続けるAI」へと進化することで、当社のパートナーである製薬企業、大学、バイオベンチャーの研究開発の高度化と創薬の成功確率の向上に貢献してまいります。

#### ■ 今後の展開

対象領域の拡大、導出パイプラインの拡大、複数拠点化を視野に、本拠点を起点に、FRONTEOは以下のような展開を進めてまいります。

- 対象領域の拡大:これまで重点領域としてきた希少疾患やすい臓がんを起点に、将来的には素材、食品、化粧品など他領域への展開も視野に入れて取り組みます
- 導出パイプラインの拡大、製薬企業との関係性構築の加速:本拠点の本格稼働により、製薬企業への導出パイプラインの拡大、製薬企業との関係性構築の加速を目指します
- 拠点の拡大:将来的な複数拠点化を視野に、AI創薬研究体制の規模拡大を進めます

#### ■ これまでの取り組みと本拠点の位置付け

FRONTEOは、2025年5月に「FRONTEO共創型創薬エコシステム」を始動して以降、製薬企業との共創プロジェクトの実施、また米国市場への本格進出(Q Partners LLCとの戦略的パートナー契約、オクラホマ大学医学部との共同研究)やバイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業「DDAIF Innovation Bridge」開始、今年4月には東京科学大学との産学連携拠点を開設するなど、創薬イノベーションを起こし、革新的な医薬品を継続的に生み出す体制の構築を段階的に進めてまいりました。  
本拠点「KIBIT AI Biology Lab」は、当社が今後のAI創薬事業を推進する上での最重要拠点となります。

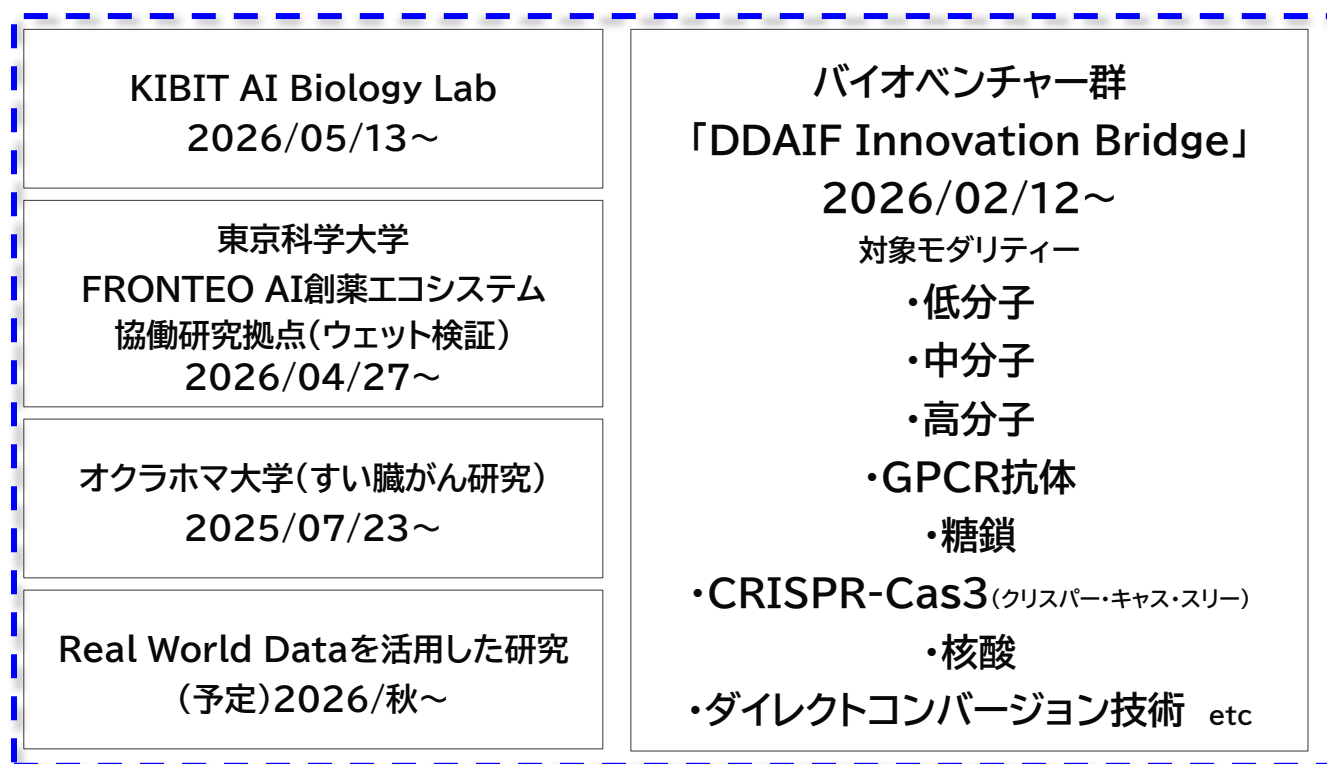
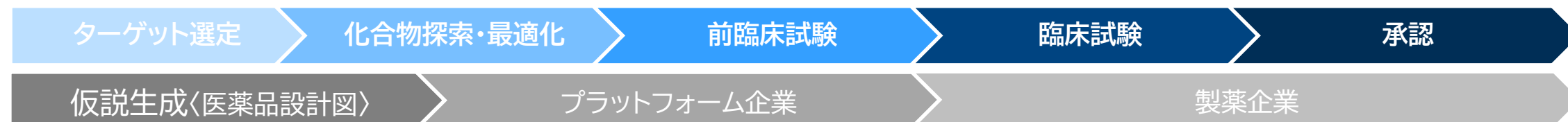
今後もFRONTEOは、本創薬エコシステムを通じて革新的な医薬品の研究開発と、難治がんや希少疾患をはじめとする治療法のない疾患への新たな治療選択肢の創出を目指すとともに、「日本を再び創業の地に」の理念のもと、医薬品産業を自動車・半導体に次ぐ日本の基幹産業として再興させることに貢献してまいります。

2026年5月13日プレスリリースより抜粋



# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロセスの最上流工程を担う

| DDAIFにより、通常10年以上を要するターゲット選定から化合物探索・最適化、前臨床試験までのプロセスを大幅に効率化し、短期間での導出が可能に



製薬企業へ導出

# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 ライセンスアウトパイプライン

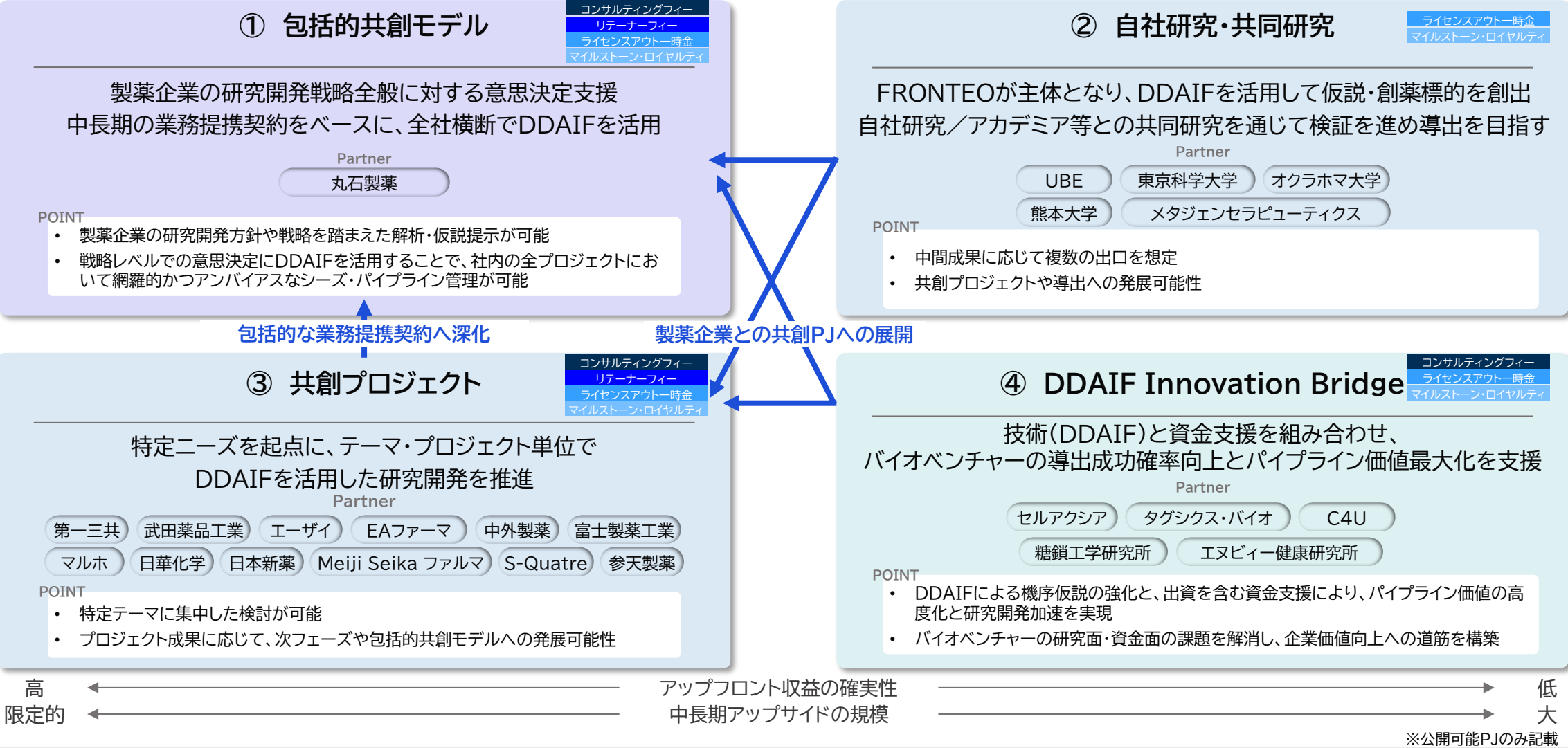
- | 製薬企業への導出(ライセンスアウト)を目指すパイプラインが複数進行中
- | すい臓がん案件は、米国におけるがん研究の中核機関の一つであるオクラホマ大学で研究を推進。今後は動物実験により、さらなるエビデンスを蓄積
- | エヌビー健康研究所との案件は、最短で2026年度中の製薬企業への導出(ライセンスアウト)を目指す

ライセンスアウトパイプライン

FRONTEO エコシステム					導出
ターゲット選定	化合物探索・最適化		前臨床試験	臨床試験	承認
領域	疾患	ライセンス保有者	モダリティ	開発ステージ	基本情報
オンコロジー	すい臓がん	自社		研究	自社研究。In vitroにてがん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認。米国オクラホマ大学で追加試験を実施。今後In vivoへ移行
代謝疾患	線維症	他社	抗体 (特許取得済)	初期前臨床段階	エヌビー健康研究所との「DDAIF Innovation Bridge」共同開発案件 GPCRを標的とした抗体医薬品
オンコロジー		共同	抗体	臨床	他社との共同プロジェクト
非公開		共同	低分子	前臨床	他社との共同プロジェクト 創薬シーズの創出および製薬企業への導出

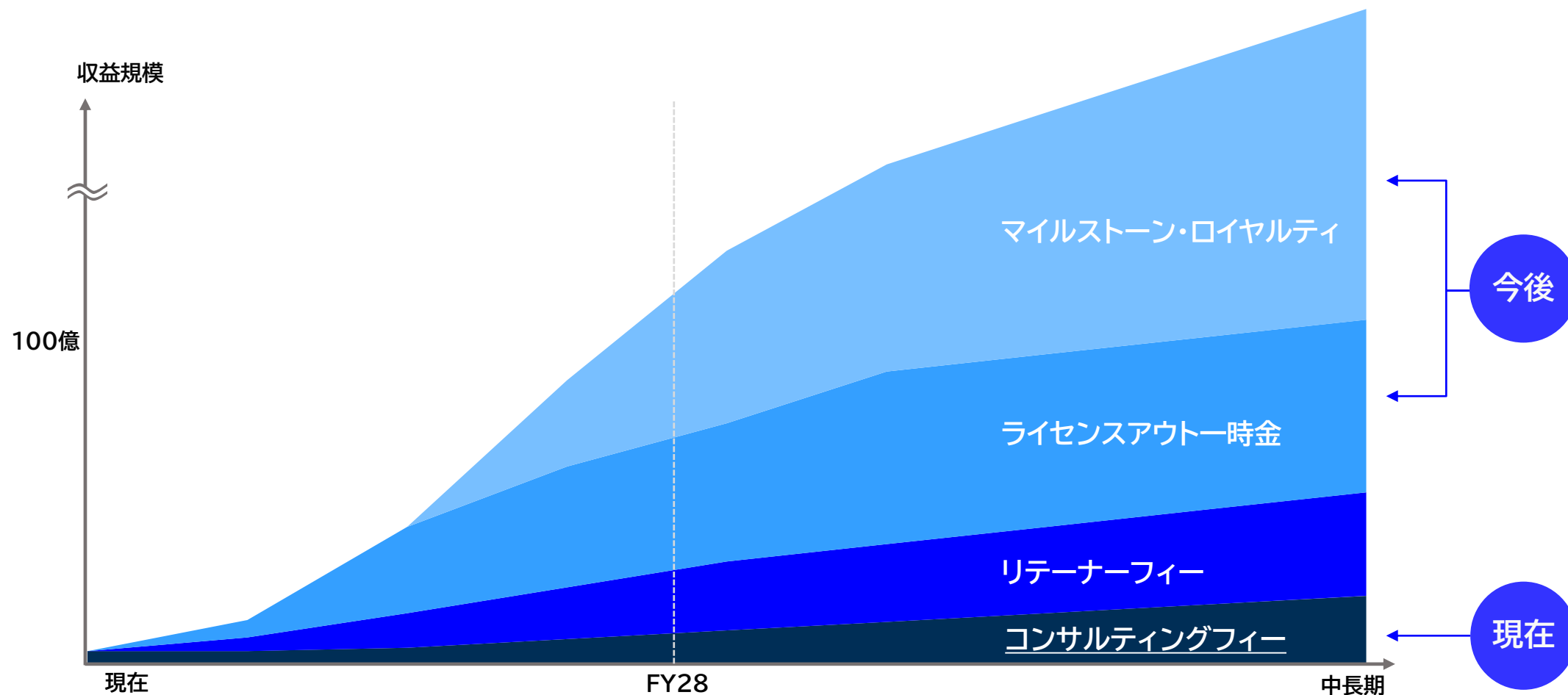
# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 4つのビジネスモデル

- 創薬プロセスの関与レベルや契約形態に応じて設計された4つのAI創薬ビジネスモデル
- 短期収益から中長期の導出・ロイヤリティまでを、複数のAI創薬ビジネスモデルで創出するポートフォリオを構築



## ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 ビジネスモデル成長イメージ

- FRONTEOは医薬品開発の設計図ともいえる「仮説」を提供
- 共創プロジェクトをベースとした安定的な収益モデルを基盤とし、創薬開発の進捗に応じたマイルストーンや、パイプライン導出型のビジネスモデルによる、中長期的な非連続成長を目指す



## 03 リスクマネジメント事業



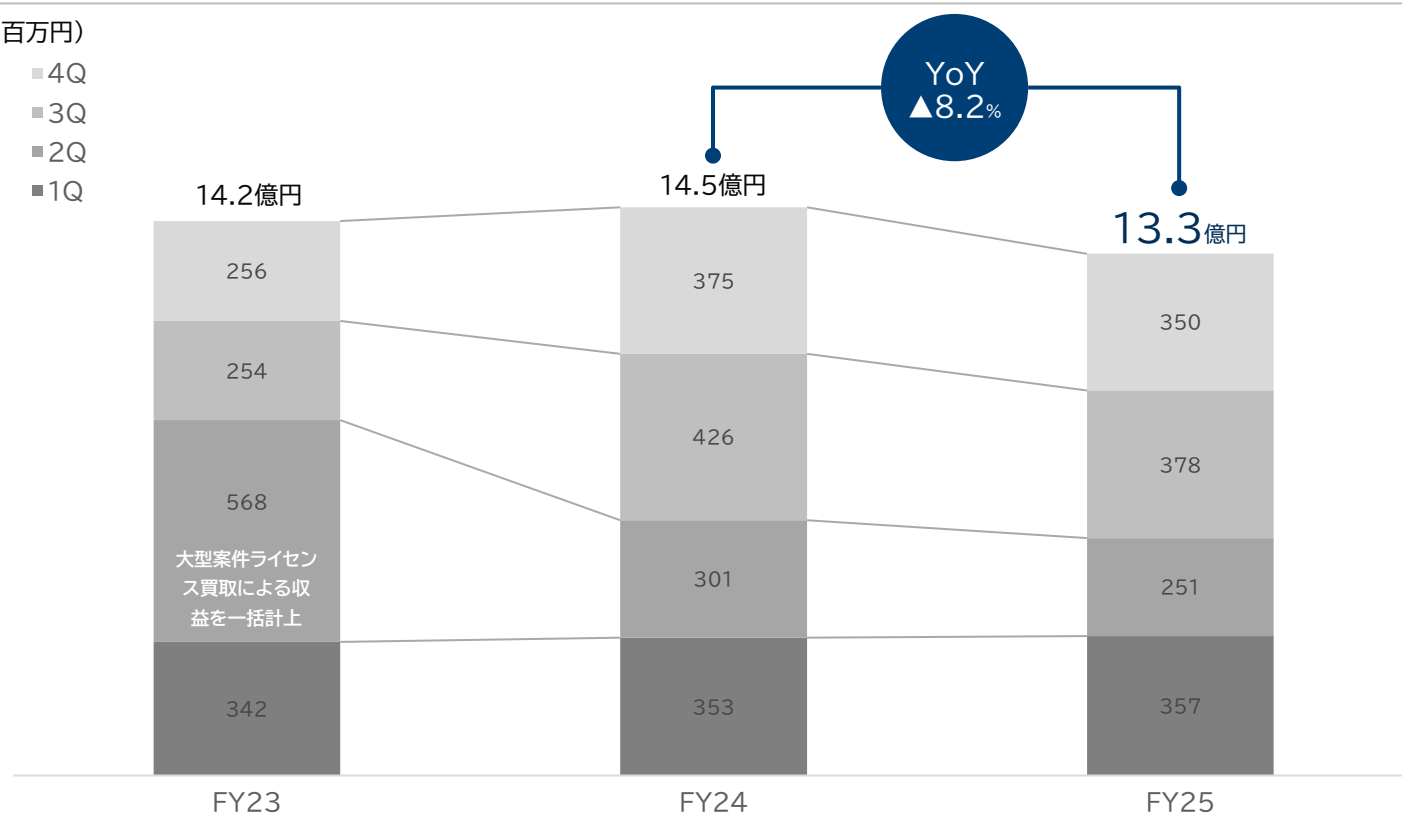
## リスクマネジメント事業 BI・コンプライアンス支援分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比8.2%減。リカーリング率85%
- リカーリング収益は堅調に推移した一方、新規案件の積み上げは十分な成果に至らず
- 引き続き、情報漏洩、人権問題、品質不正などの社会的重要度の高いテーマにおける需要の取り込みを推進するとともに、プロダクトの選択と集中を通じて収益性の高い事業構造への転換を進める

## 売上高

(百万円)

- 4Q
- 3Q
- 2Q
- 1Q

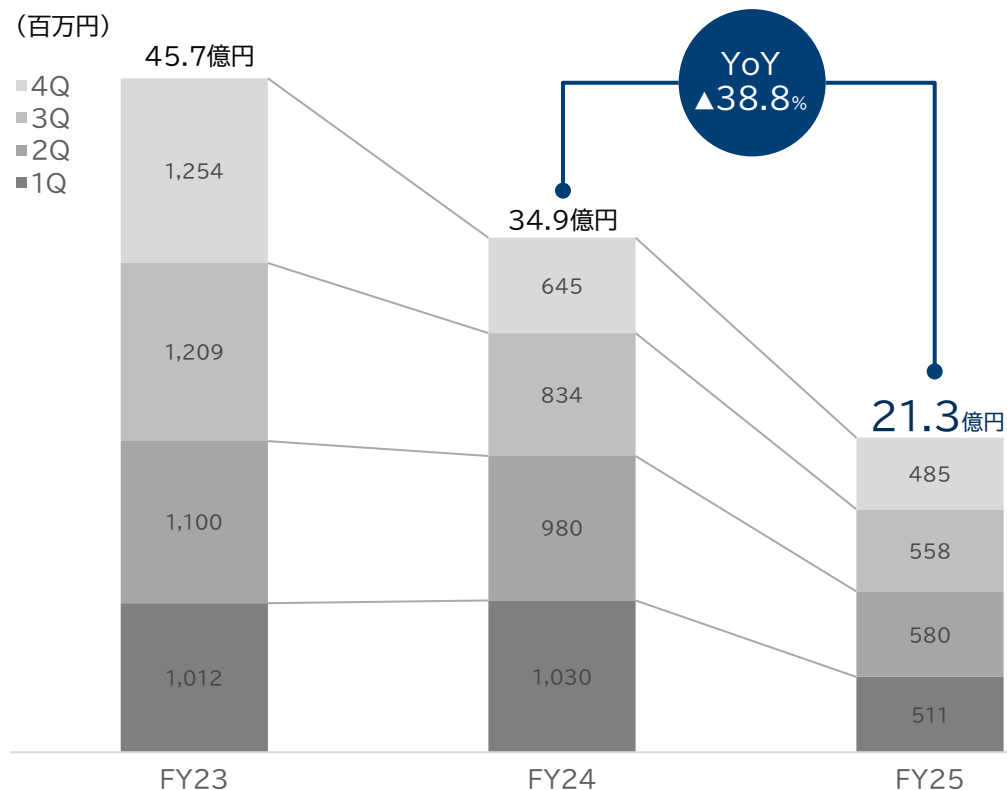


## リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 分野別売上高

売上高は前年同期比38.8%減

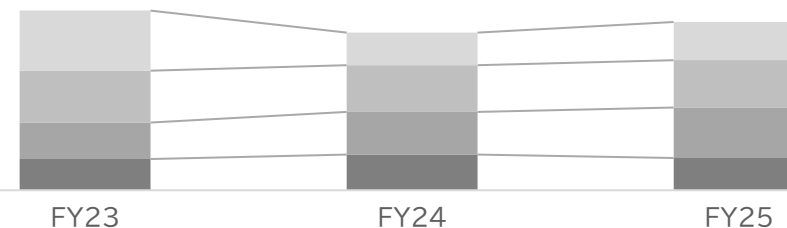
米国・台湾からの事業撤退の影響を受け、eディスカバリ案件の売上減少。一方、国内では第三者委員会や特別調査委員会を含む調査ニーズの高まりを受け、デジタル・フォレンジック案件は堅調に推移

## 売上高



## デジタル・フォレンジック

4Q  
3Q  
2Q  
1Q



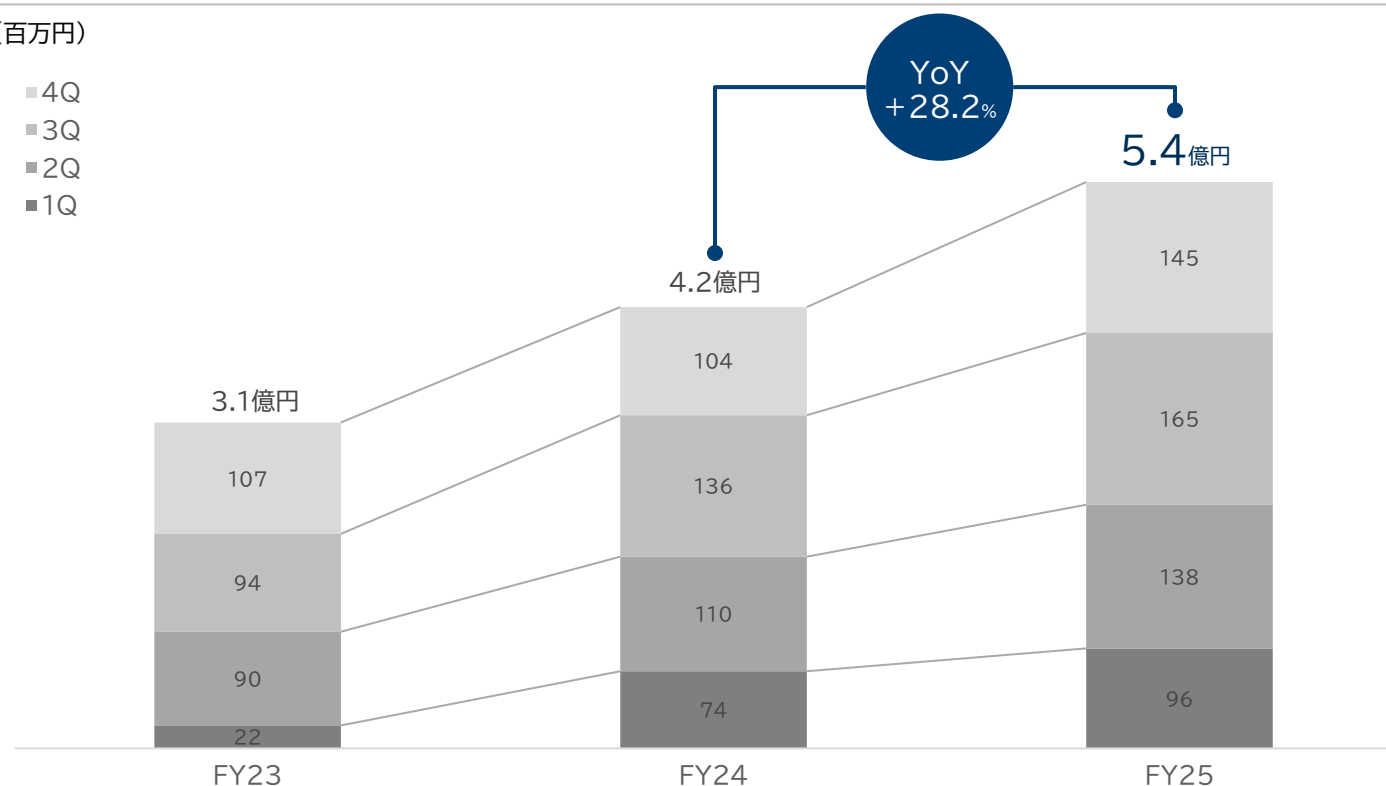
## リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比28.2%増と大幅増収。官公庁向けは前年同期比約2倍。リカーリング率68%
- 内閣府事業の一環である「研究セキュリティ・リスクマネジメントシステム」を受託開発
- 日本の研究競争力と安全保障を脅かすリスクとして、国際的な研究活動における技術流出や外国からの不当な影響への懸念が高まる中、日本政府は2025年12月に「研究セキュリティ・インテグリティの確保に関する取組のための手順書」を策定。研究機関や企業に対して体制整備を求めるなど、本分野における需要は今後も拡大する見込み

### 売上高

(百万円)

- 4Q
- 3Q
- 2Q
- 1Q



## 04 DX事業

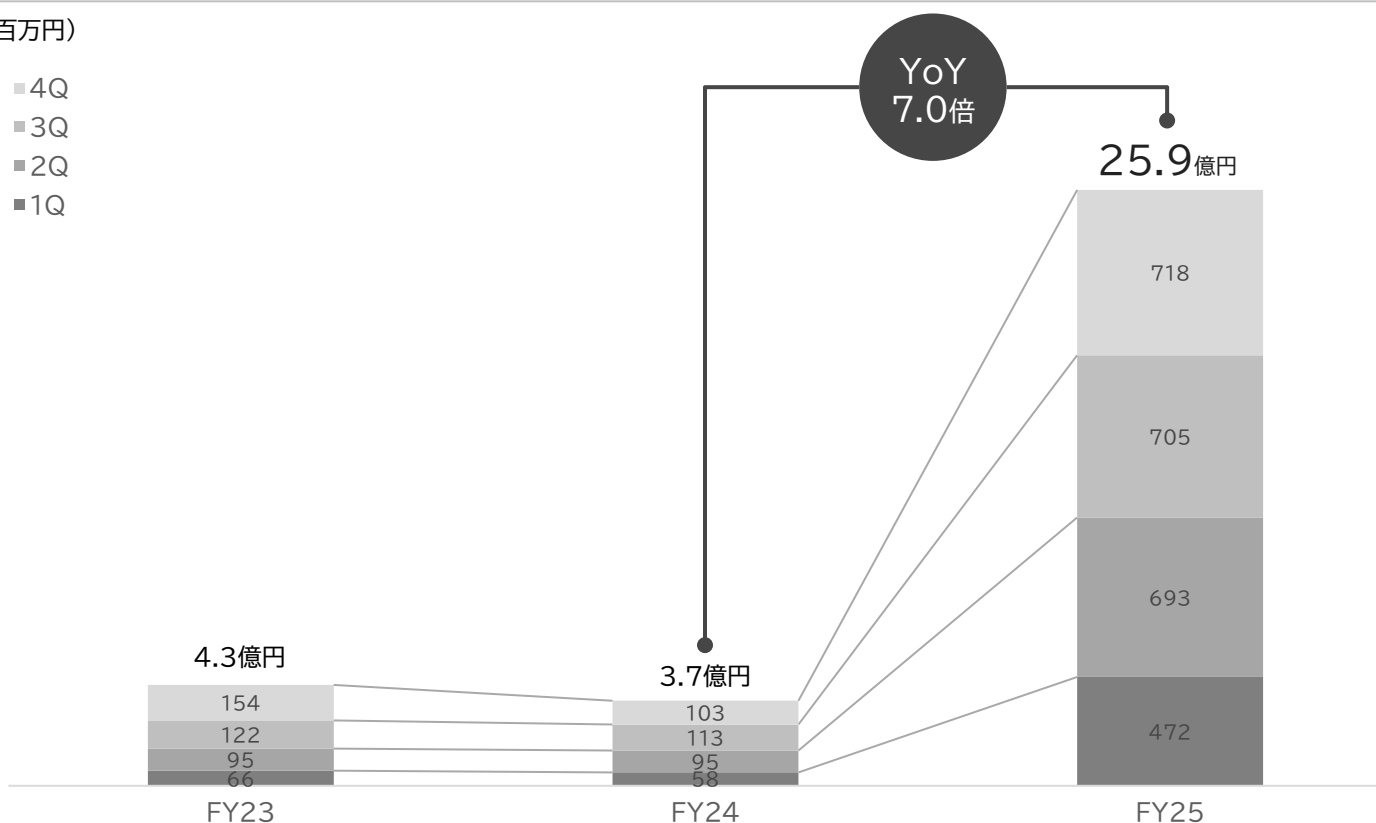
## DX事業 売上高

- 売上高はアルネッツ買収により前年同期比7倍と大幅増収
- アルネッツが提供するソリューションを通じて、企業内に分散するデータの統合およびデジタル化を実現し、企業のDX推進のための基盤を整備
- FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションとの組み合わせにより、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的なDX支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を目指す

### 売上高

(百万円)

- 4Q
- 3Q
- 2Q
- 1Q



## 05 2027年3月期業績予想

# 2027年3月期 業績予想

- FY26は、ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)においてFY25からの成長をさらに加速させ、本格的な収益化フェーズへ移行するとともに、同事業を当社の中核事業として明確に位置づけ、中長期的な事業拡大を牽引する成長ドライバーとして確立を推進
- ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)は、単発の共創プロジェクトによるアップフロント型収益モデルから、パイプライン導出による一時金、マイルストーン、ロイヤルティ等を軸としたアップサイド型収益モデルへの転換を推進。FY26は、導出可能性の高いパイプラインを着実に積み上げることで、新たな収益モデルへの移行を進め、非連続性成長を実現する基盤を構築
- リスクマネジメント事業は、一部のリカーリング案件解約ならびに縮小の影響により減収減益を見込む。FY26は、プロダクトおよびサービスポートフォリオの戦略的な選択と集中を進めることで、中長期的な競争力強化を推進
- 全事業部の計画は下期偏重であり、FY26第1四半期においては一時的な営業損失を見込む。下期にかけて収益が拡大する見通しであり、通期では黒字を計画

(百万円)	FY25	FY26 業績予想	増減率	ライフサイエンスAI事業		
売上高	7,643	7,600	▲0.6%	AI創薬分野	・ 共創プロジェクトの継続的な積み上げによるアップフロント型の安定収益に加え、将来的な創薬パイプライン導出によるアップサイド型の収入の獲得を見据えた「DDAIF Innovation Bridge」案件の拡充により収益を積み上げる計画	非連続 成長
（ライフサイエンスAI事業）	1,033	1,500	+45.2%			
（リスクマネジメント事業）	4,284	3,500	▲18.3%			
（DX事業）	2,325	2,600	+11.8%	AI医療機器分野	・ 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器（SDS-881）」の認証獲得、産業横断アライアンスによる非医療機器プログラムの販売拡大	非連続 成長
営業利益	739	300	▲59.4%			
（ライフサイエンスAI事業）	▲ 16	100	-	リスクマネジメント事業		
（営業利益率）	-	6.7%		ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野 プロフェッショナル支援分野	・ 「KIBIT Eye」を基幹サービスと位置づけ、プロダクトの選択と集中「KIBIT」を軸に顧客の個別課題に対応した受託開発・SIを組み合わせたソリューション型サービスを推進	リニア 成長
（リスクマネジメント事業）	643	95	▲85.2%			
（営業利益率）	15.0%	2.7%		経済安全保障分野	・ 官公庁および民間企業への訴求を継続 ・ コンサルティングサービスの拡充	リニア 成長
（DX事業）	112	105	▲6.3%			
（営業利益率）	4.8%	4.0%		リーガルテックAI分野	・ 顧客基盤の構築・強化を継続（FLLP・ウェビナー・Risk Initiative Community）	堅実な 事業運営
経常利益	675	250	▲63.0%			
当期純利益	544	150	▲72.4%	DX事業		
EBITDA	1,182	890	▲24.7%	株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野	・ BIプロフェッショナル支援分野とアルネッツの事業シナジーの創出により、安定的かつ着実な事業拡大を目指す	リニア 成長

\* 2027年3月期よりセグメント変更しております。2026年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

# Appendix



# セグメント別財務情報

(百万円)	FY23				FY23 通期	FY24				FY24 通期	FY25				FY25 通期
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	
ライフサイエンスAI事業															
売上高	28	119	48	423	620	64	75	73	141	354	107	166	241	518	1,033
AI創薬分野	26	20	40	24	111	15	17	27	63	122	64	120	194	370	751
AI医療機器分野	1	99	8	399	509	48	58	46	78	231	42	45	46	147	281
営業利益	▲ 162	▲ 116	▲ 111	211	▲ 178	▲ 64	▲ 57	▲ 72	▲ 37	▲ 231	▲ 137	▲ 78	▲ 17	217	▲ 16
リスクマネジメント事業															
売上高	1,378	1,759	1,558	1,618	6,315	1,458	1,392	1,397	1,125	5,374	966	969	1,102	981	4,019
BI・コンプライアンス支援分野	342	568	254	256	1,421	353	301	426	375	1,457	357	251	378	350	1,338
リーガルテックAI分野	1,012	1,100	1,209	1,254	4,575	1,030	980	834	645	3,491	511	580	558	486	2,136
経済安全保障分野	22	90	94	107	316	74	110	136	104	425	96	138	165	145	545
官公庁	2	33	56	58	151	7	30	38	27	104	15	56	79	44	195
民間企業	20	57	38	48	164	66	79	98	76	321	81	82	86	100	350
営業利益	▲ 407	92	▲ 11	235	▲ 91	200	178	193	86	659	▲ 7	156	280	175	606
DX事業															
売上高	66	95	122	154	439	58	95	113	103	370	472	693	705	718	2,590
BI・プロフェッショナル支援分野	66	95	122	154	439	58	95	113	103	370	50	45	109	58	264
アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	422	647	595	659	2,325
営業利益	▲ 2	38	1	47	84	14	18	37	28	99	56	4	75	13	149

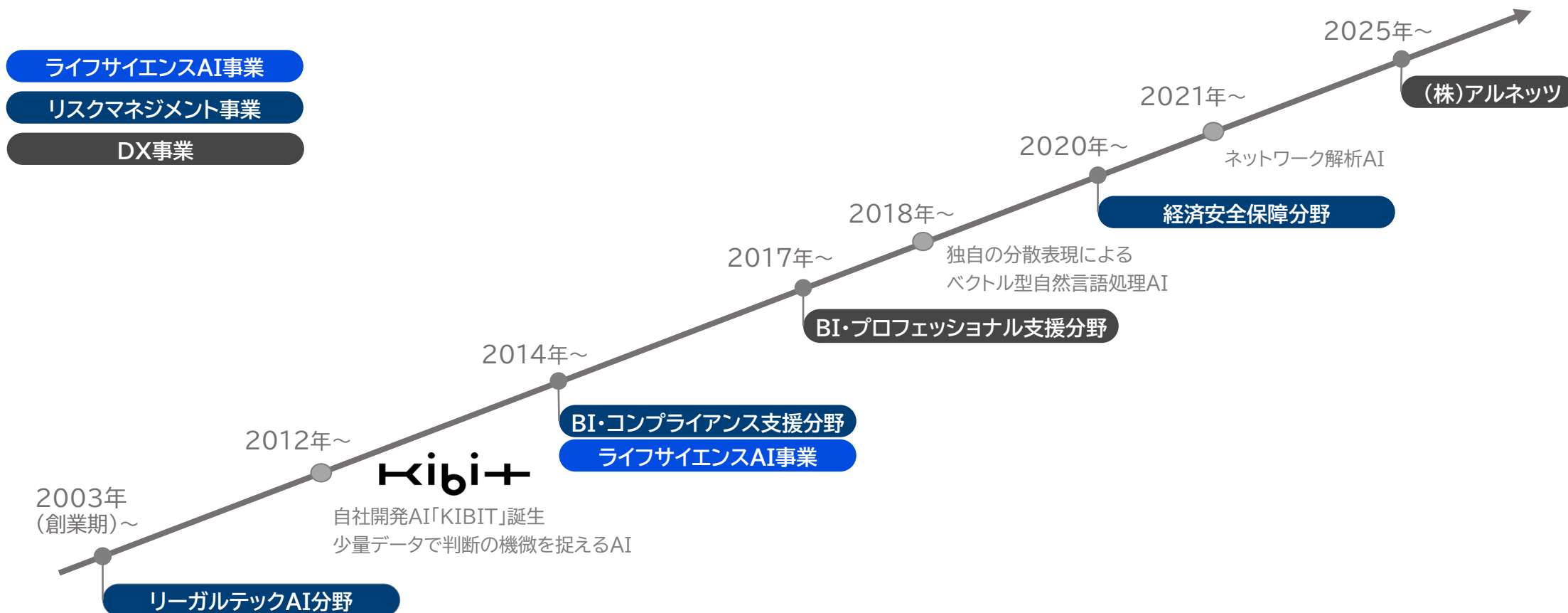
会社名:	株式会社FRONTEO
上場証券取引所:	東京証券取引所グロース市場(証券コード:2158)
代表取締役社長:	守本 正宏
設立年月日:	2003年8月8日
資本金:	915,057千円(2026年3月31日時点)
従業員数(連結):	272人(2026年3月31日時点)
事業内容:	<p>自社開発の方程式駆動型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援  <small>(ライフサイエンスAI事業 / リスクマネジメント事業&lt;ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野/ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野/リーガルテックAI分野/経済安全保障分野&gt;/DX事業&lt;株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野&gt;)</small></p>
主要取引先:	<p>民間企業(化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など)          官公庁(法執行機関・各種監視委員会)、国内外法律事務所、医療機関</p>

## Global Offices



## 方程式駆動型AI「KIBIT」を基軸とした当社事業の変遷と実績

2012年の「KIBIT」誕生以降、事業領域の拡大および課題の多様化に合わせた技術進化を継続



## 大手企業を中心に導入

### 金融機関



### 製造業



### 製薬企業



### サービス業



### 大学・研究機関



※ 2026年4月30日時点 一部掲載、順不同

方程式駆動型AI「KIBIT」の提供を通じて、日夜社会課題と向き合う各分野の専門家を科学的に支援

## 社会課題

病気 訴訟 不正 コンプライアンス 経済安全保障 技能伝承 DX

## 解決の努力

## 専門家

創薬研究者



医師



弁護士



犯罪捜査官



企業法務・  
コンプライアンス



経済安全保障  
分析官



熟練技能士



## 判断支援

NLP AI(特許取得済み)



KIBIT



FRONTEO

豊富な社会実装経験

マップ化する技術(特許取得済み)



専門家自らが  
理解する仮説生成

自然言語による判断  
(会話、文書、論文)

# 方程式駆動型AI「KIBIT」とは

## 「KIBIT」の特徴

- | 自然言語処理、ネットワーク解析に利用可能な軽量・高速・高性能な独自開発AI
- | 省電力で環境負荷の小さいGreen microAI
- | 少量の教師データでも性能を発揮する独自アルゴリズム搭載
- | 判断根拠を直感的にビジュアライズ
- | 世界で92件の有効特許登録 (2026年3月31日時点)

## Green microAI

数学的アプローチで開発された、軽くて高性能なAI

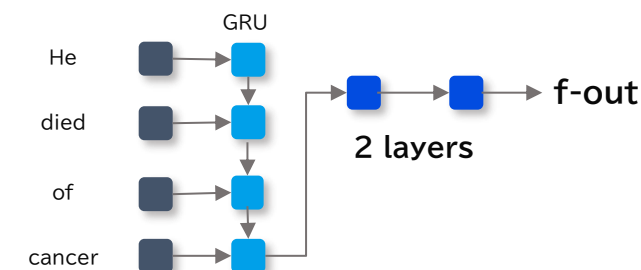


※1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋

※2 日本のCO<sub>2</sub>排出量および日本の人口からFRONTEO作成 ※3 ※1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

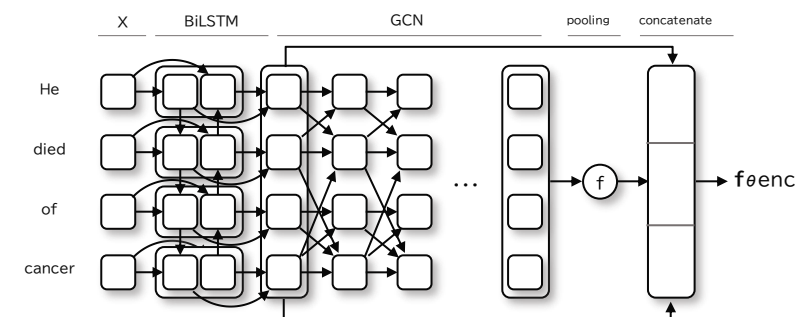
## KiBi+ モデル

## 400分の1の構造



## GCEモデル

## 4×100 layers

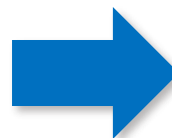


純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」

## トヨシバ方程式



文書や単語を  
意味をもったまま  
解析することが可能

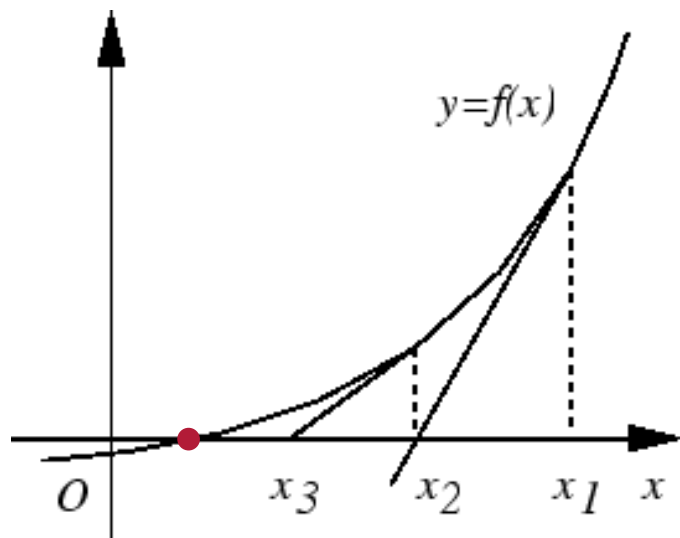


## 推論を実現

- ✓ 因果関係を理解
- ✓ 全く新しい発見
- ✓ 極省電力(CPU1個)

## データ駆動型AI (生成AI含む)

最適解



## 方程式駆動型AI 「KIBIT」

方程式

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$ax^2 + bx + c = 0$$

$$a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left( \frac{b}{2a} \right)^2 \right\} - a \left( \frac{b}{2a} \right)^2 + c = 0$$

$$a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left( \frac{b}{2a} \right)^2 \right\} = a \left( \frac{b}{2a} \right)^2 - c$$

$$\left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left( \frac{b}{2a} \right)^2 \right\} = \left( \frac{b}{2a} \right)^2 - \frac{c}{a}$$

$$\left( x + \frac{b}{2a} \right)^2 = \frac{b^2 - 4ac}{4a^2}$$

$$x + \frac{b}{2a} = \pm \sqrt{\frac{b^2 - 4ac}{4a^2}}$$

$$x = -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

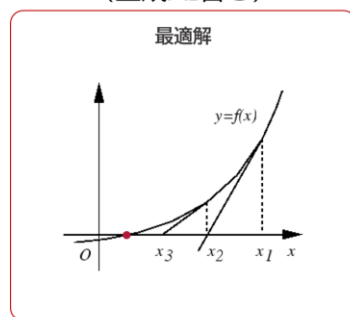
$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$



## スーパーコンピューター & AI



データ駆動型AI  
(生成AI含む)



## ウェットラボ & ロボティックス



相関関係スクリーニングで出てきた膨大な結果をウェットラボで確認

## 方程式駆動型AI「KIBIT」による創薬支援

「KIBIT」は論文情報から  
バイオロジーにのみ沿った関係を抽出

医学論文



数百次元の  
コーパス



因果関係  
マップ

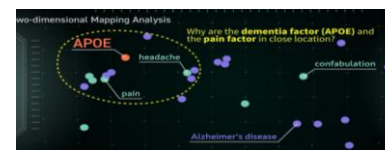


特許技術により、因果関係を示し、かつ  
論文にも明記されていない関係も発見



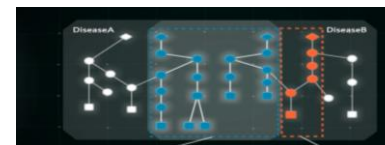
「KIBIT」による  
シミュレーション機能を活用した検証手法

2次元マップ解析



コーパスを2次元マップに変換し、疾患  
と遺伝子の新たな関連性を探索

重複差分分析



複数の疾患の差異をベクトルの的に分析し、  
疾患特有のパスウェイを調べ、要因を特定

仮想ノックアウト実験



注目した遺伝子に関して、仮想的にノックアウトし、  
パスウェイがどのように変化するかを分析し、効果を  
確認

方程式駆動型AI  
(KIBIT)

方程式

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

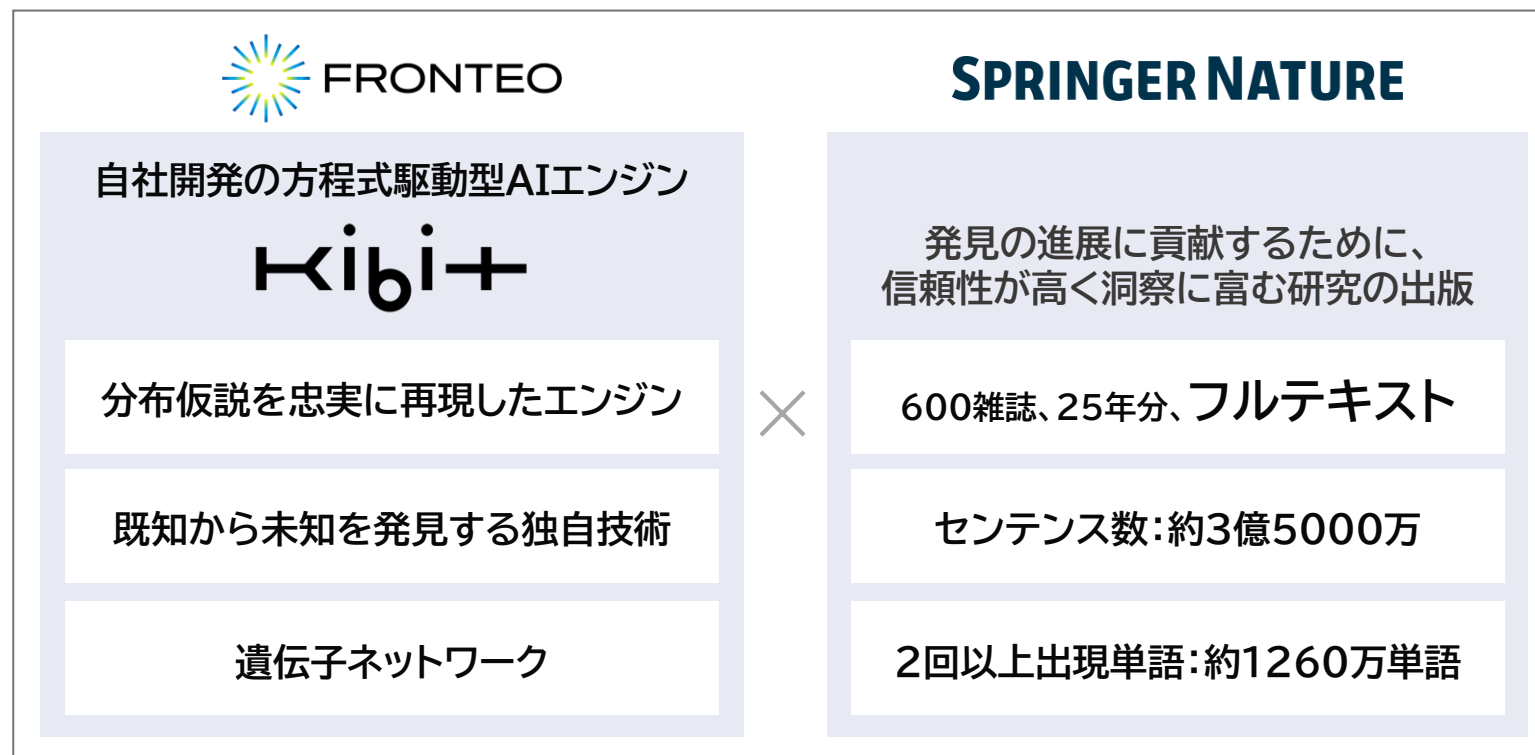
$$\begin{aligned} ax^2 + bx + c &= 0 \\ a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left( \frac{b}{2a} \right)^2 \right\} - a \left( \frac{b}{2a} \right)^2 + c &= 0 \\ a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left( \frac{b}{2a} \right)^2 \right\} &= a \left( \frac{b}{2a} \right)^2 - c \\ \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left( \frac{b}{2a} \right)^2 \right\} &= \left( \frac{b}{2a} \right)^2 - \frac{c}{a} \\ \left( x + \frac{b}{2a} \right)^2 &= \frac{b^2 - 4ac}{4a^2} \\ x + \frac{b}{2a} &= \pm \sqrt{\frac{b^2 - 4ac}{4a^2}} \\ x &= -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \\ x &= \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \end{aligned}$$

全て「KIBIT」で完結

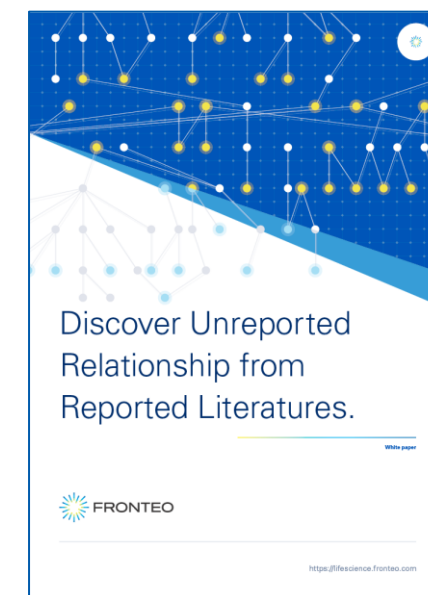


## 方程式駆動型AI「KIBIT」がもたらす画期的な創薬アプローチに関するホワイトペーパーを公開

- | 既知の文献情報から未知の関連性を発見する独自技術を活用した標的探索やドラッグリポジショニング等を支援するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」を推進
- | 「KIBIT」が2022年までのシュプリンガーネイチャー掲載文献から予測した未知の創薬標的について、2024年の新しい文献で疾患と遺伝子の関連性が明らかになる



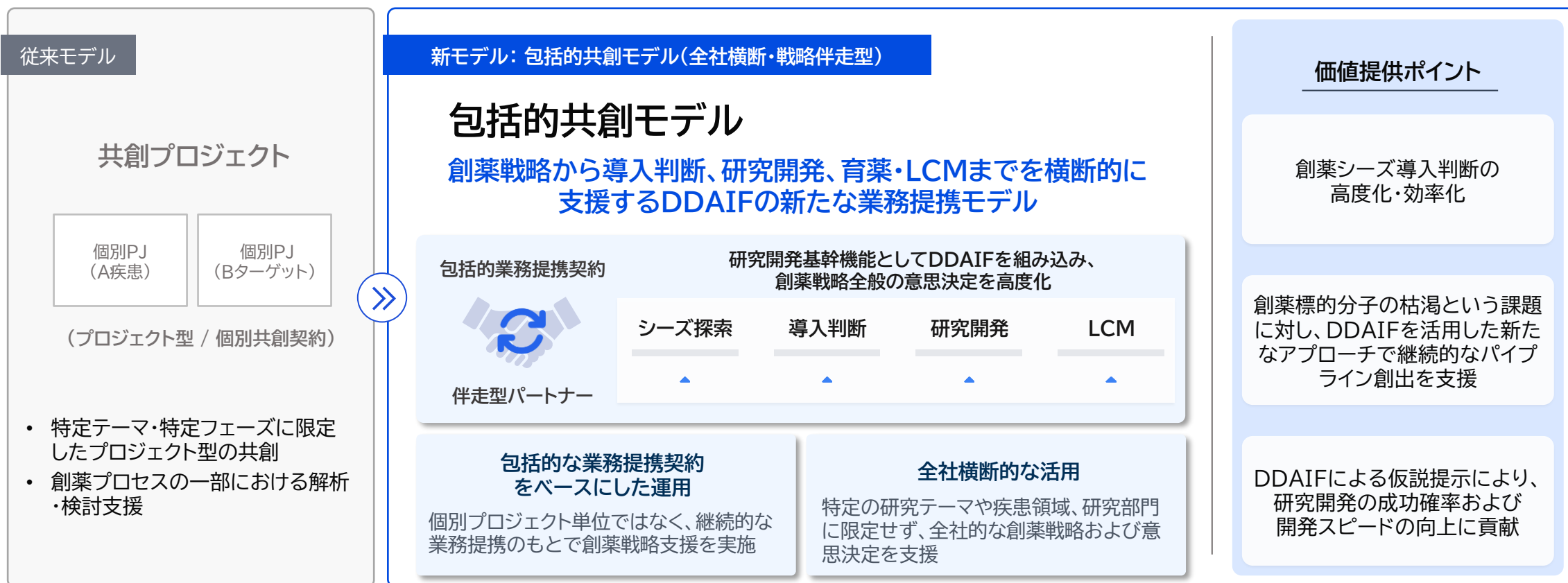
## ホワイトペーパー



URL: [https://lifescience.fronteo.com/documents-contact?doc=dl\\_lsai\\_snwhitepaper](https://lifescience.fronteo.com/documents-contact?doc=dl_lsai_snwhitepaper)

# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 ビジネスモデル① 「包括的共創モデル」

- 特定の研究テーマや疾患に限定せず、製薬企業の研究開発基幹機能としてDDAIFを活用し、創薬戦略から両社で共創するモデル
- 個別プロジェクト単位ではなく業務提携契約に基づく中長期的な運用を通じて、オーダーメイドな技術支援は基より弾力性のある提携領域の設定が可能
- 本モデルは、従来の共創プロジェクトを発展させた新たなDDAIFの取り組みであり、複数社への展開による非連続的収益拡大を見込む





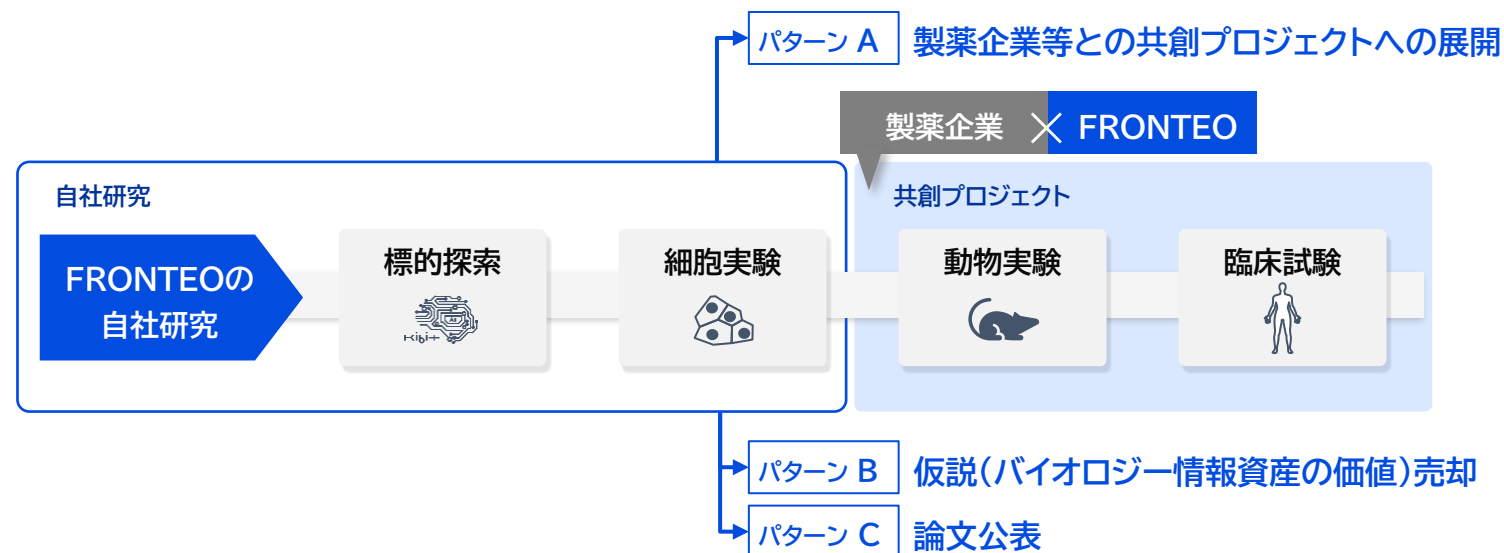
｜ FY25より自社研究・共同研究を起点とした活動を開始

｜ 得られた研究成果は論文・学会を通じた公表だけでなく共創プロジェクトへの展開や仮説(バイオロジー情報資産の価値)の売却を通じた収益化を狙う

## 共創プロジェクト の起点

### 自社研究 パイプライン

- ・ 自社研究は中間成果に応じて複数の出口を持つ可能性がある
- ・ 成果をもとに製薬企業等へプロジェクトの打診を行い、連携開始が「共創プロジェクト」の起点となる
- ・ 共創プロジェクトに進まない場合の出口として、仮説(バイオロジー知見の価値)売却や論文発表などが想定される



### 製薬企業等 のニーズ

- ・ 製薬企業が掲げる疾患領域や治療ニーズを出発点とする
- ・ ニーズに応じたテーマ設定を行い、協働で仮説構築・標的探索を推進
- ・ 以後の検証実験・候補評価までを共創フレームで継続的に実施



# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社研究・共同研究パイプライン

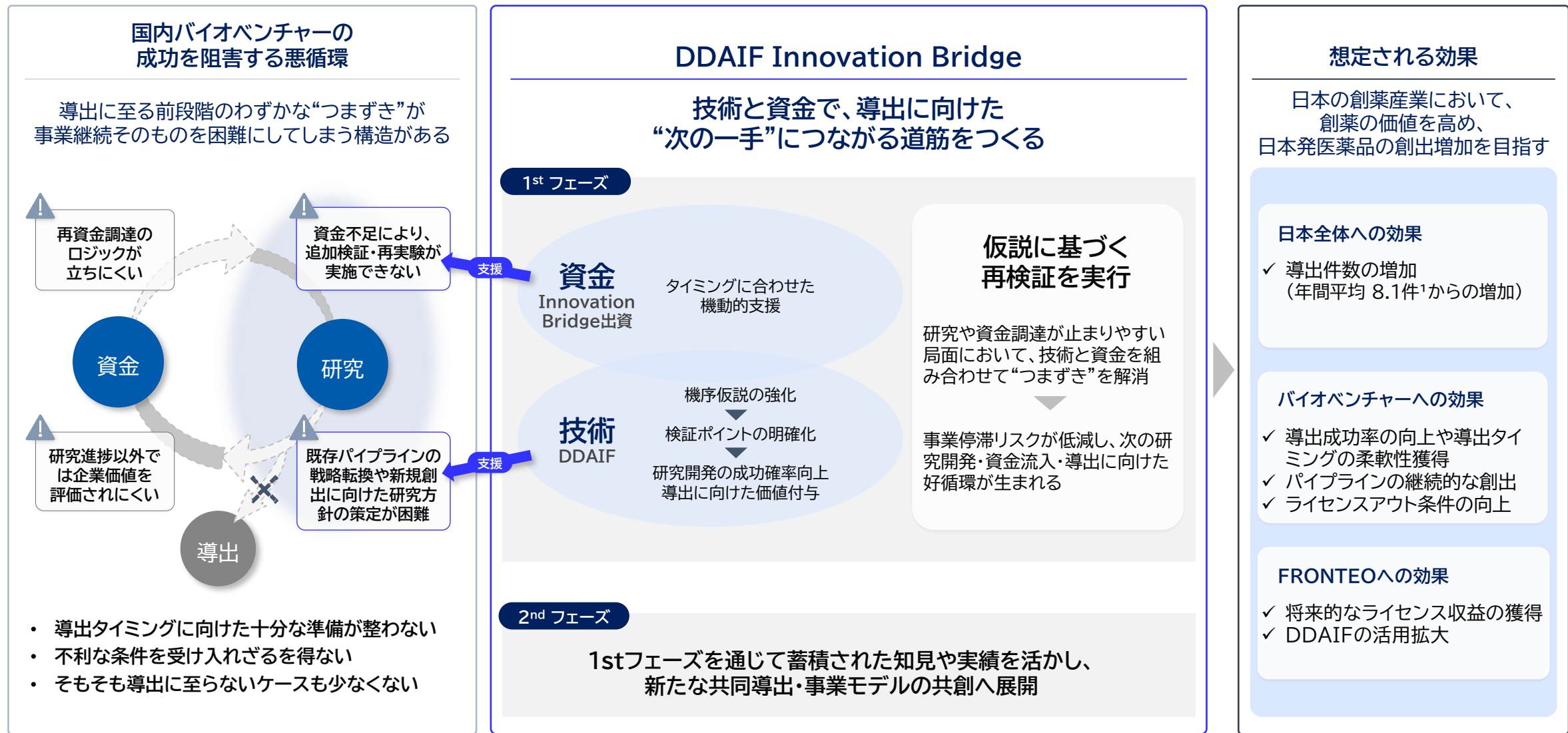
- | 中長期的な非連続成長を視野に入れた、研究テーマを複数進行中
- | 足元、すい臓がんの標的を複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
- | 創薬における仮説生成とバイオロジー深化を通じて、製薬企業等との共創を推進

## 自社研究・共同研究パイプライン

	研究テーマ	疾患領域	現ステージ	パートナー	今後の展望
公開済	新たながん治療法探索に関する共同研究	—	FRONTEOがDDAIFの解析手法を活用し、特定のがん種に対して治療効果のある既存薬を抽出し、熊本大学が細胞実験や動物実験、臨床データの調査などを通じて仮説の検証を行う		
	マイクロバイオーム創薬の共同研究	—	マイクロバイオームサイエンスに関するデータベース情報をDDAIFで解析し、腸内細菌の作用や、疾患との関連性の探索手法の開発、マイクロバイオーム創薬への応用可能性などを検証		
	新規標的分子候補の細胞増殖抑制に対する効果検証	すい臓がん	新規性の高い標的遺伝子の候補17個を抽出、in vitroにて、がん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認。オクラホマ大学と連携し追加試験を実施中。	オクラホマ大学	標的候補に対して作用するメカニズムを解明 薬を構成する化合物の獲得や、動物実験での有効性の確認を目指す 足元では、複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
	創薬シーズの創出および製薬企業への導出	対象疾患検討中	2026年1月より研究開始	UBE	
未公開	研究テーマA	疾患A	共同研究に基づく検証を鋭意注力中		—
	研究テーマB	疾患B			—
	研究テーマC	疾患C			—
	研究テーマD	疾患D	特許出願済	X社(協議中)	—

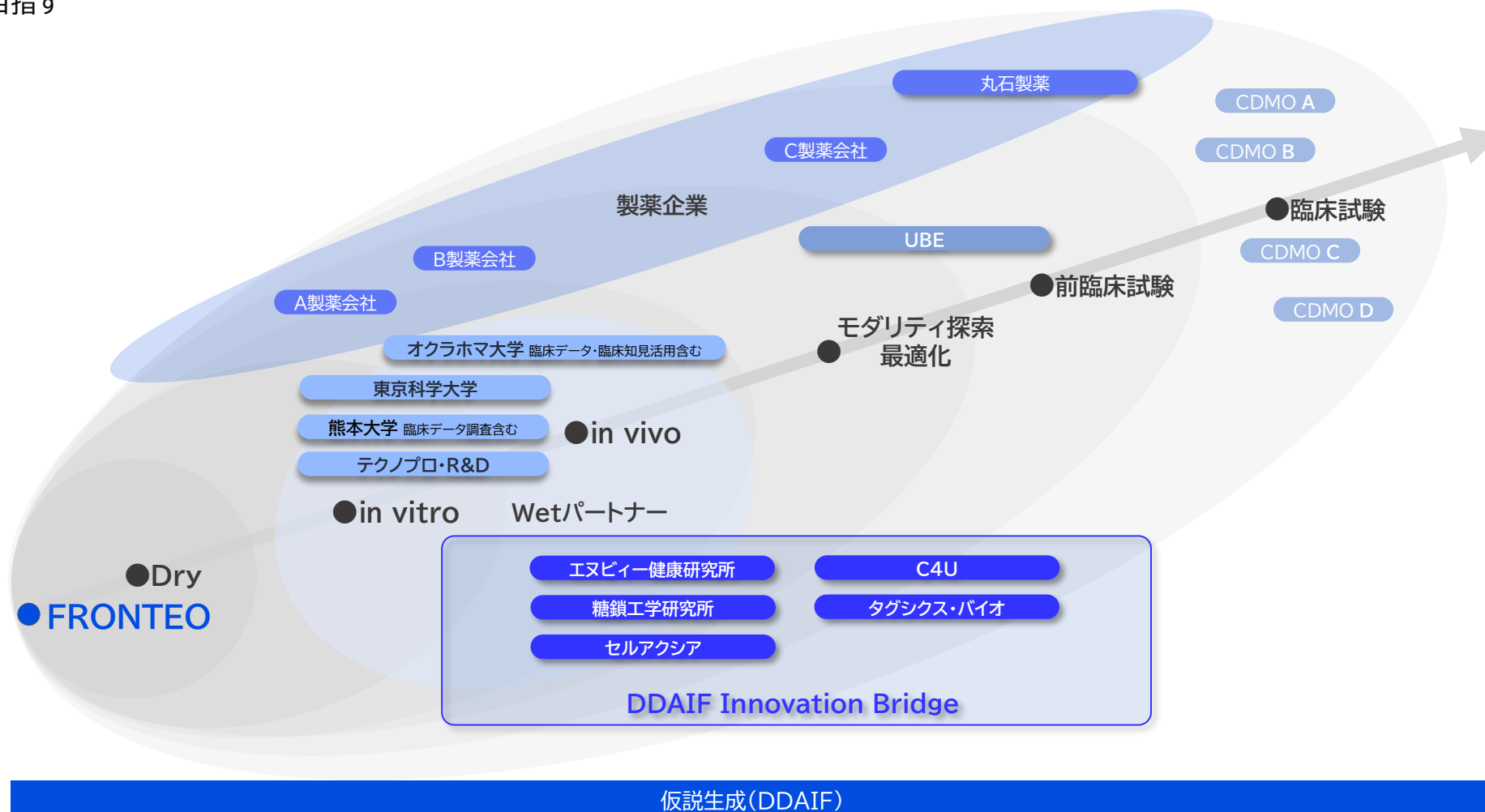
# ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 ビジネスモデル④「DDAIF Innovation Bridge」

国内バイオベンチャーの抱える課題をFRONTEOの技術(DDAIF)および資金提供を通じて解消し、創薬シーズ開発効率を高めて日本の創薬力向上を目指す



## ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 FRONTEO共創型創薬エコシステムの将来像

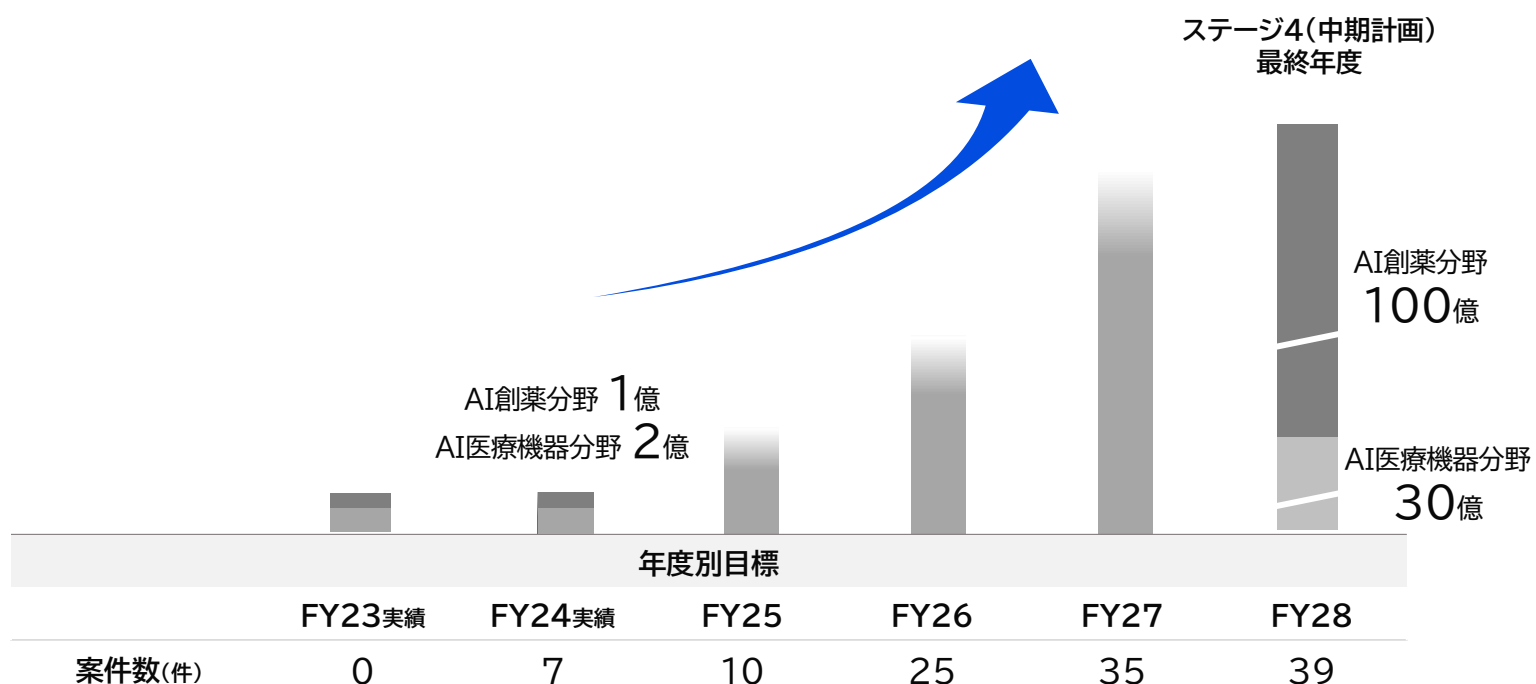
- FRONTEOの独自テクノロジーを起点に、各分野のスペシャリストとアライアンスを形成し、ワンストップで対応可能なエコシステムを構築
- 「日本を再び創薬の地へ」という理念のもと、医薬品産業を自動車、半導体に次ぐ基幹産業へと成長させ、薬を必要とするすべての人に適切に届くフェアな世界の実現を目指す





## ライフサイエンスAI事業 将来性とKPI

- FY28 売上高130億円達成を目指し、DDAIFの共創プロジェクト型案件数をKPIとする
- DDAIFにおける共創プロジェクトにおいては、開発の進捗に応じて受領するマイルストーンフィーを通じた収益化に加え、中長期的には当社独自で探索した分子を製薬会社へ展開することから見込まれる収益も視野に

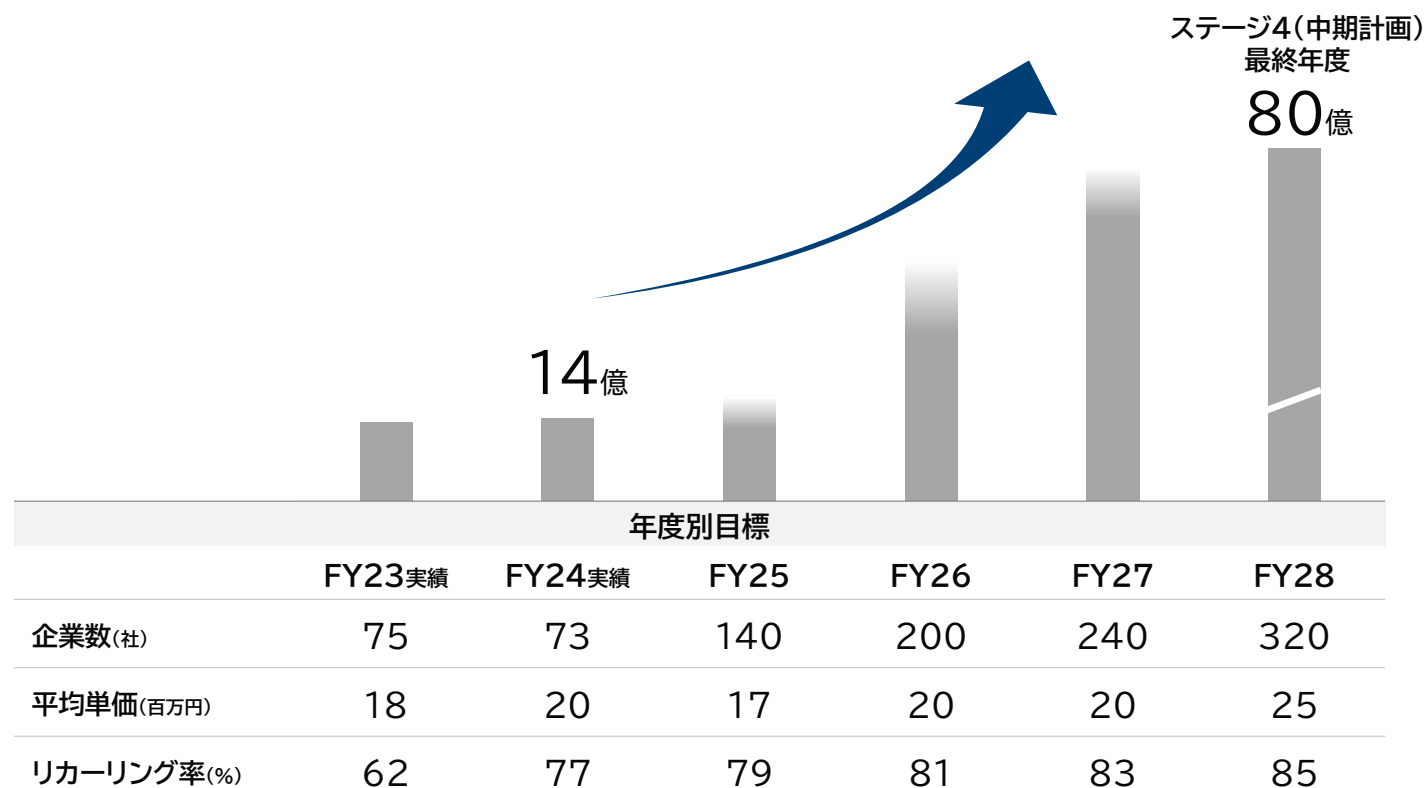


### ステージ4達成のための施策

- ✓ FRONTEOの技術基盤と親和性の高い標的探索領域を中心とした共創プロジェクトを基軸とした案件創出
- ✓ バリデーション合格／開発マイルストーンなどFRONTEOが創出した標的候補の妥当性が一定確認できたタイミングでの収益計上することで、収益規模をスケールアップ
- ✓ また、共創プロジェクトで得られた知見や成果および収益は、新たな技術開発に再投資し標的候補の開発成功率を継続的に向上させていく
- ✓ 高度専門人材(主に薬理研究者およびデータサイエンティスト)の採用に向けた積極投資

# リスクマネジメント事業 BI・コンプライアンス支援分野 将来性とKPI

｜ FY28売上高80億円達成を目指し、契約企業数、平均単価、リカーリング率をKPIに設定

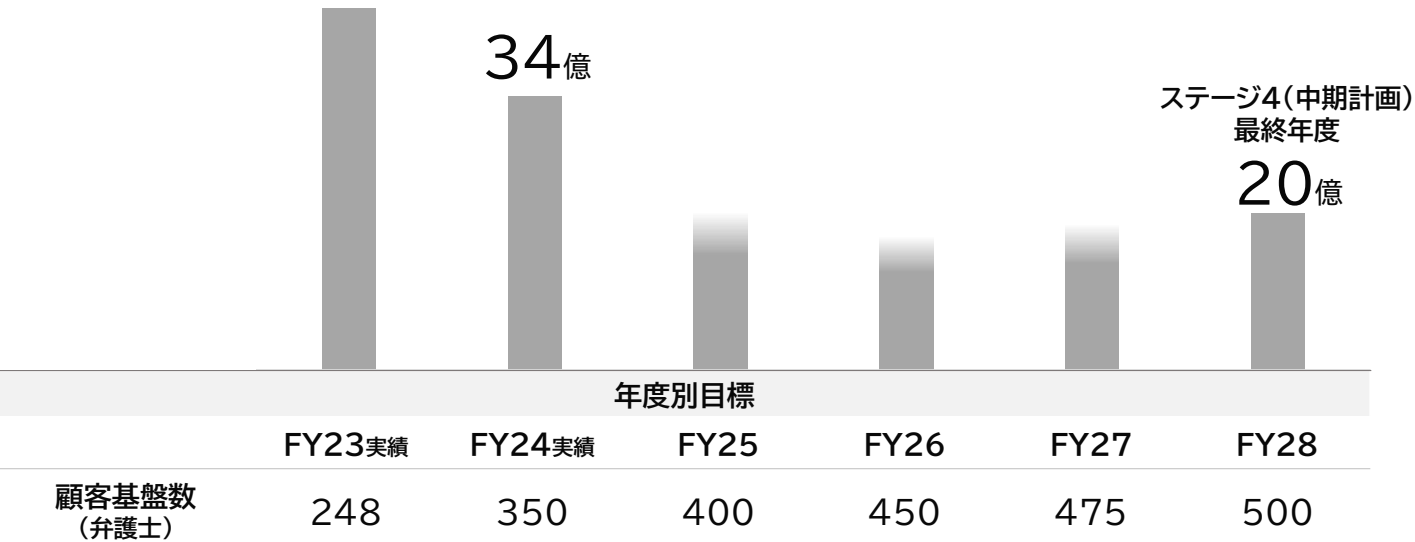


## ステージ4達成のための施策

- ✓ FY28までに導入社数320社、1企業あたり単価を25百万円にし、80億円を目指す
- ✓ 営業施策：
  - ・ FY24は既存顧客との取引深耕を軸としたアカウント毎の取引拡大・早期案件獲得に注力
  - ・ FY25以降は既存顧客との取引深耕に加え、大手企業・準大手企業をターゲットにし、1億円規模の大規模プロジェクトの獲得
  - ・ リスクマネジメント事業内での連携強化  
従来からの強みを活かし個々のソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
  - ・ リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る77%に達し、ステージ4までにリカーリング率85%を目指す

# リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 将来性とKPI

｜ FY28売上高20億円維持を目指し、顧客基盤数(弁護士)をKPIに設定

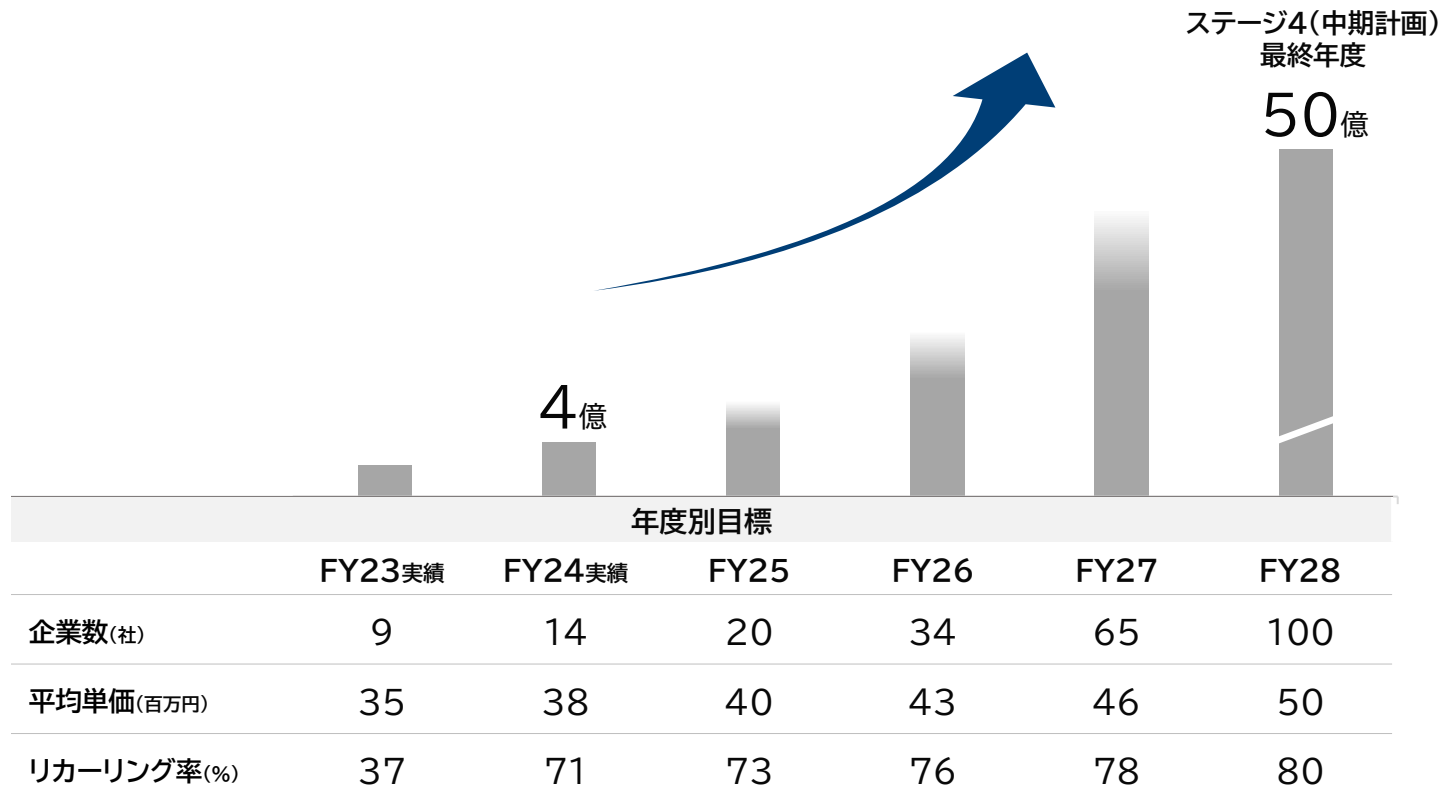


## ステージ4達成のための施策

- ✓ FLLP・勉強会・ウェビナーなどを実施し、顧客基盤の構築・強化を継続
- ✓ リスクマネジメント事業内での連携強化  
従来からの強みを活かしソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
- ✓ 収益相関作用が高い組織／オペレーションを維持し、大型案件に左右されない堅実な事業運営

## リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 将来性とKPI

- FY28売上高50億円達成を目指し、契約企業数、平均単価、リカーリング率をKPIに設定
- 経済安全保障室を設置している又は設置を検討している上場企業数は19社\*  
FY24時点で当社ソリューションの導入シェアは70%超と推定



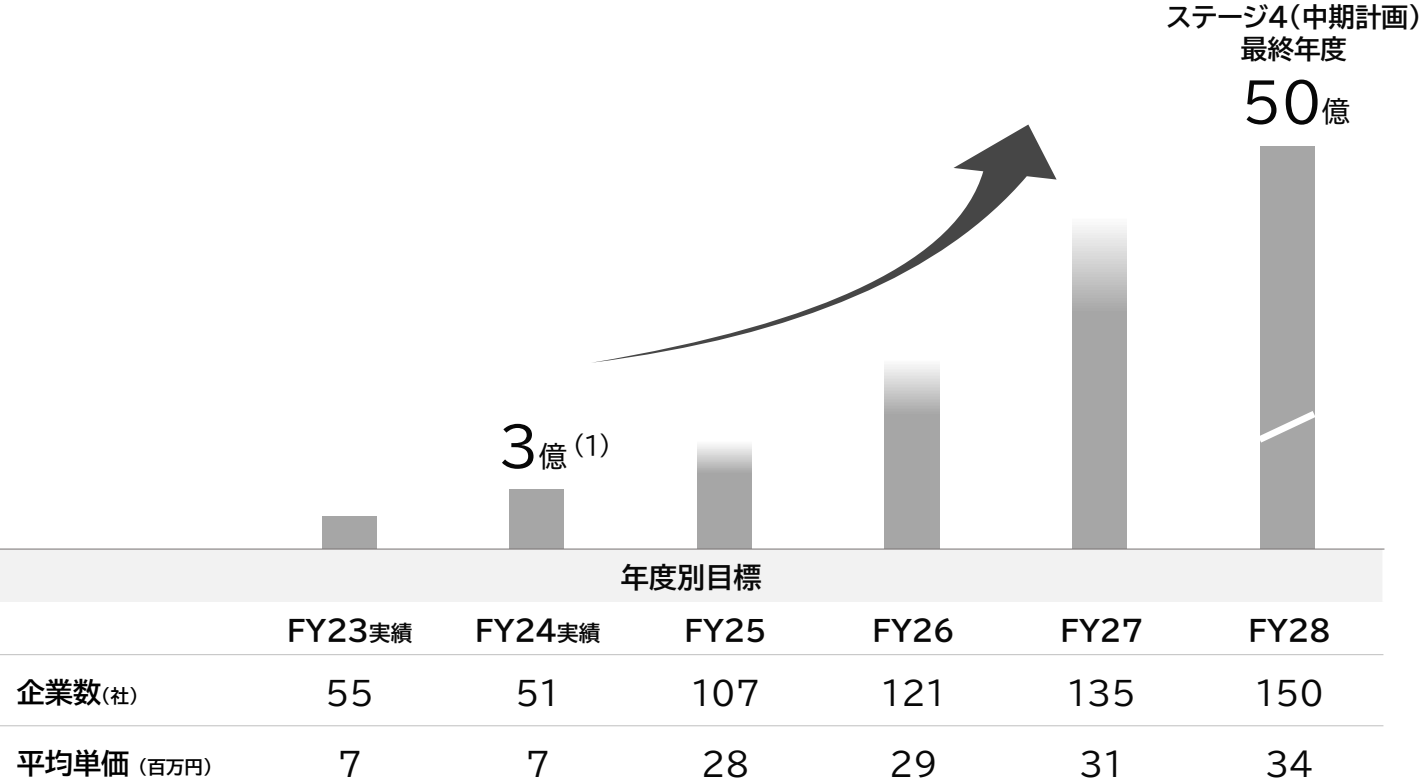
### ステージ4達成のための施策

- ✓ アーリーアダプター・官公庁への訴求を継続
- ✓ 営業施策:官公庁や大手企業をターゲットに、包括契約(ライセンス+伴走支援)を前提としたプロジェクトの獲得
- ✓ ソリューションのアップデート:新機能の追加や定期的なアップデートをすることで、付加価値を向上
- ✓ さらなる国内市場活性化の為に、経済安全保障室立ち上げコンサルティングサービスを始動させ、経済安全保障における必要機能階層を定義し、データドリブンな意思決定を行うための総合的なサービス提供を推進していく
- ✓ リスクマネジメント事業内での連携強化  
従来からの強みを活かしソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
- ✓ リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る71%に達し、ステージ4までにリカーリング率80%を目指す

\*株式会社第一生命経済研究所「経済安全保障から経営を考える」を参考

# DX事業 将来性とKPI

| FY28売上高50億円達成を目指し、契約企業数、平均単価をKPIに設定



## ステージ4達成のための施策

- ✓ 子会社化したアルネッツが提供するソリューションを通じた、企業内に分散するデータの統合およびデジタル化を実現し企業のDX推進のための基盤構築と、FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションを組み合わせることで、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的な支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を実現

(1) BI・プロフェッショナル支援分野のみの売上高



# FRONTEO Bright Value

集合知に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、  
情報社会のフェアネスを実現します。



お問い合わせ先

株式会社FRONTEO  
email: [ir\\_info@fronteo.com](mailto:ir_info@fronteo.com)

代表取締役社長  
守本正宏Xアカウント



#### 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。